

市町名	テーマ
姫路市	姫路市における認知症サロン・カフェの取組
市川町	認知症の正しい理解を広めるための普及啓発について
福崎町	早期診断後の支援体制整備
神河町	神河町における認知症初期集中支援チームの効果
相生市	認知症を介護する家族の会（オレンジの会）の開催
赤穂市	チームオレンジ その設置・運営・育成
宍粟市	宍粟市における認知症カフェの取組
たつの市	地域の見守り体制の構築 ～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～
太子町	太子町における認知症予防への取組
上郡町	上郡町における認知症普及啓発事業の効果
佐用町	令和4年度 認知症予防教室（頭と体の健康教室）
豊岡市	豊岡市 身近な場における認知症理解の普及・啓発
養父市	（作成中につき、後日更新）
朝来市	朝来市におけるチームオレンジにむけた取り組みについて
香美町	認知症の人本人の社会参加への支援 香美町で「本人のやりたい」を叶える支援のために
新温泉町	認知症の正しい理解を広めるための普及啓発
丹波篠山市	丹波篠山市におけるアルツハイマー月間の一斉啓発の取り組み
丹波市	丹波市における「認知症を地域で支える」理解を広めるための活動を展開
洲本市	洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み
南あわじ市	南あわじ市における高齢者等の見守り・SOSネットワークの充実に向けて
淡路市	認知症高齢者等の見守り、SOSネットワークの充実について

# 令和4年度【姫路市】認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

### 認知症の人とその家族に対し、理解あるまちづくりの推進

- ・ 地域包括ケアシステムの構築
- ・ 認知症に対する住民理解の啓発
- ・ 認知症の人の支援等に関わる医療介護の連携
- ・ 認知症ケアパスの作成、運営
- ・ 地域包括支援センターの支援

報告者氏名：姫路市地域包括支援課 小林由美  
認知症地域支援推進員 堀江笑加

# 姫路市介護保険事業計画（第8期）

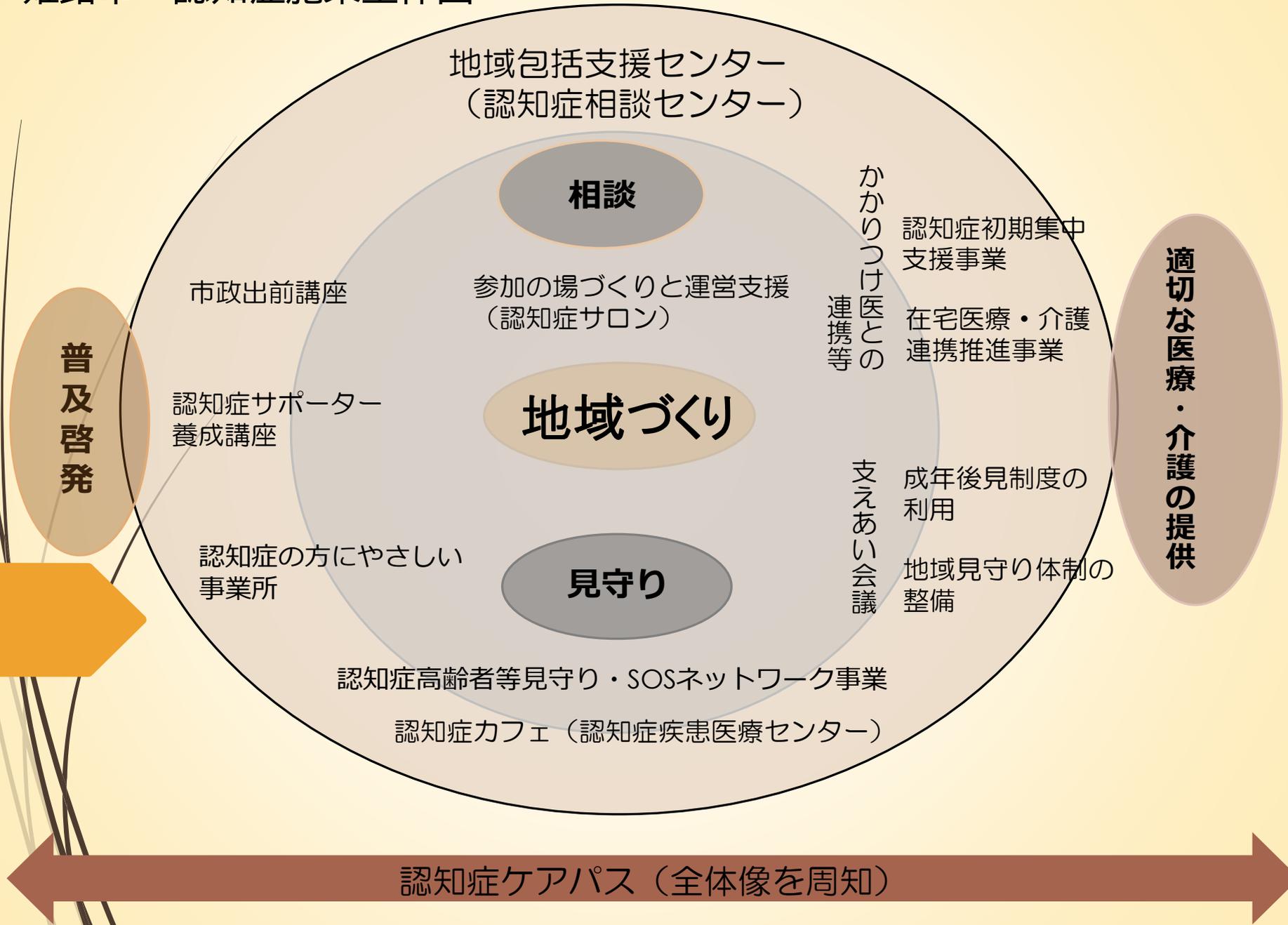
## 【基本目標】

認知症とともに暮らす地域の実現

## 【重点事項】

- ・ 認知症にやさしい地域づくり
- ・ 認知症になるのを遅らせるための取組
- ・ 認知症になっても  
地域で暮らし続けるための取組

# 姫路市 認知症施策全体図



## 標題 姫路市における認知症サロン・カフェの取組

### ○認知症サロンの取組の経緯

<開始> 平成26年7月

<位置づけ>

- ・認知症の人と家族が地域住民とともに過ごせる継続的な通いの場

<目的>

- ・認知症への理解の促進
- ・高齢者の地域での孤立防止
- ・認知症（MCI）の早期発見・進行予防

<課題>

- ・地域包括支援センターが立ち上げ及び運営の支援を行っているが、常駐の専門職が確保できていない。

⇒専門職常駐の認知症カフェの創設を検討

## ○専門職が常駐する認知症カフェの創設に向けて

既存の認知症サロンとの違いを整理し、認知症カフェとして、認知症疾患医療センター内設置に向けて取り組む。

事業	認知症カフェ	認知症サロン
対象者	市内在住の認知症と診断された人とその家族	地域住民 (認知症であるか否かは問わない)
目的	医療系専門職による相談・助言 家族同士の交流を目的としたピア活動	認知症への理解の促進 高齢者の地域での孤立防止 認知症(MCI)の早期発見・進行予防
開催場所	認知症疾患医療センター内 令和5年度1か所設置	地域の公民館等 R5年1月末現在 95か所
配置人員	社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師・ 作業療法士等の専門職1名以上	認知症サポーター
内容	治療や介護に関する相談会 レクリエーション 茶話会	レクリエーション 茶話会
地域包括支援 センターの役割	必要時の連携 周知・啓発	立ち上げ支援 運営支援

⇒ 令和5年度 姫路中央病院認知症疾患医療センターに認知症カフェを創設

### ▶ 最後に・・・

認知症サロン・カフェは、地域の実情や状況に応じ開催することで、本来の目的を達成することが重要と考えます。だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる“認知症とともに暮らす地域”を実現するための地域資源として、十分機能するよう連携していきたいと思えます。

# 令和4年度 市川町 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：2名
  - 2 認知症地域支援推進員の役割
- ・認知症啓発
  - ・認知症個別相談対応
  - ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築
  - ・認知症対応力向上のための支援  
（認知症カフェ、家族会、サポーター養成講座）
  - ・相談支援体制構築（認知症初期集中支援事業他）

報告者氏名： 岡本 舞

# 市川町 認知症施策全体図

## ○認知症対策の推進

### ◎施策の展開方向

①普及・啓発活動の推進…一般住民をはじめ認知症の正しい知識の普及啓発

②相談体制の充実…本人の状態に応じた適切な支援を行えるような体制整備

### ③認知症支援サービスの充実

- ・介護者への支援…家族会を開催し情報交換を行い、日頃の悩みや不安を解消
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの構築…行方不明になる可能性のある方に事前登録して、日頃から地域で見守り、行方不明になった際にすみやかに発見活動を開始
- ・ボランティアの育成…認知症サポーター養成講座の実施、やすらぎボランティアを派遣し、家族の介護疲れをやわらげる一助として支援

### ④認知症の予防対策の推進

- ・認知症予防を目的としたプログラムの推進…予防を目的にしたプログラムの導入を検討し、認知症を推進行させない工夫を図る
- ・認知症地域支援推進員の配置…地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う
- ・認知症初期集中支援チームの設置…認知症の人やその家族に早期に関わるチームを配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築

## 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発について

### ○事業概要

- ・市川町では各地区、地域主体で民生委員、ボランティアなどを中心に月に一回つどいの場がある。そこでは茶話会、レクレーションなどが行われており、その場で例年要望があった地域に認知症の正しい理解を広めるための普及啓発を行っている。

### ○令和4年度の啓発

- ・コロナ禍であったため、つどいの場所の開催をしている地域が限られ6回実施し、81名の方に啓発を行った。
- ・啓発内容としては県の認知症チェックシートやパンフレットを用いて行っている。チェックシートを地域の方に行っていただき、日頃の様子を自身で把握していただき、認知症の症状もお伝えしている。また、認知症予防の方法の一つとして、つどいの場が『社会参加』としてある事を伝え、会の参加を継続してもらうよう促している。
- ・また、誰もがなりえる病気で、病気を理解する事も支援に繋がる事をお伝えしている。病気になり別の人格になるわけではなく、傷つく・楽しい・嬉しいなど感情も変わらなくある事をお伝えしている。

## • 最後に・・・

啓発活動は毎年行っているが、担当になった当初はつどいの場で比較のお若い方に「認知症はまだ関係のないことかな」と言われる事があったが、近年、メディア等で認知症についての報道も多々され、住民さんの方から教えていただく事があり、認知度・関心度も高くなっていると感じている。

市川町は高齢化率も高く、支援者だけでは支援する事も限られてくる。そのためにも、地域の方の支援の協力が必要になってくる。今年度は地域の方に対して認知症サポーター養成講座をしばらくできていなかったため開催予定でいる。つどいの場だけの対象者の方だけでなく、幅広い年齢層の方の支援者が必要と考える。地域の皆さんの協力が大切な資源の一つであるため、お互いに支え合える地域づくりを目指したい。

# 令和4年度 【福崎町】認知症地域支援推進員活動報告

## 【福崎町】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - \* 認知症総合支援事業
    - 認知症相談窓口の設置  
（認知症相談支援センター）
    - 認知症初期集中支援チーム
    - 認知症カフェへの支援
  - \* その他の事業
    - 認知症サポーター養成講座
    - 認知症ケアネットの活用推進

**報告者氏名：本城里奈**

# 【福崎町】 認知症施策全体図

## （認知症総合支援事業）

### ①認知症相談窓口の設置

地域包括支援センターは、姫路北病院と連携し、認知症の相談に対応しています。

### ②認知症初期集中支援チーム

認知症の方やその家族に、専門医と保健師等がチームで早期に関わり、速やかに適切な医療・介護等が受けられるよう対応します。

### ③認知症カフェへの支援

認知症カフェは、地域の方やその家族を支える場です。町内2か所で実施しています。

## （その他の事業）

### ①認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の方や家族に対して、できる範囲での手助けをする人を要請します。依頼に応じ、認知症キャラバンメイトを派遣します。

### ②認知症ケアネットの活用推進

町内に全戸配布したしおりの中に掲載し、周知を図っています。認知症高齢者等見守り・SOSネットワークの活用促進も行っています。

# 【福崎町】 R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

## 標題：早期診断後の支援体制整備

### ☆認知症カフェへの支援

町内2か所で自主運営いただいている認知症カフェに対し、活動補助金の交付や情報共有等、日頃から連携に努めている。

### ☆認知症高齢者等見守り・SOSネットワーク事業の活用推進

平成28年10月開始。令和5年3月末現在、14人の登録あり。担当ケアマネジャーからの事業紹介や、介護保険新規申請時の情報提供等を行い、いざという時のために早めに登録利用していただけるよう、活用推進に努めている。

### ☆認知症サポーター養成講座実施対象者の拡充

平成27年度から町内の小学4年生を対象に実施しているが、中学生に対しても実施できないか、協議を行っている段階である。

## 最後に・・・今後の活動に向けて

(今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い)

☆認知症になっても自分らしく暮らせる町づくりをめざすために、地域支援者の理解・協力を得ながら、見守り体制の構築に努めていきたい。そのためにも、積極的に地域に出向き、地域の方々とつながりを持つ中で、地域課題の共通認識をはかり、できることから取り組んでいきたい。

☆直営の地域包括支援センター内に推進員が全員所属しているという強みを活かし、常に情報共有を行いながら、共に活動していきたい。



# 令和4年度 神河町 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

認知症ケア推進部会

認知症サポーター養成講座

認知症ケアパスの活用促進

認知症相談センターとしての対応

初期集中支援チーム事業

にじ色カフェ（認知症カフェ）の支援

認知症に対する普及・啓発

報告者氏名： 竹鼻 美結

# 神河町 認知症施策全体図

## 認知症・介護予防教室

- ・ほがらか教室
- ・いきいき倶楽部
- ・こつこつ貯筋教室

## もの忘れ健診

- ・地区巡回健康教室
  - ・認知症・介護予防教室
- 認知症タッチパネルで脳の健康度をチェック

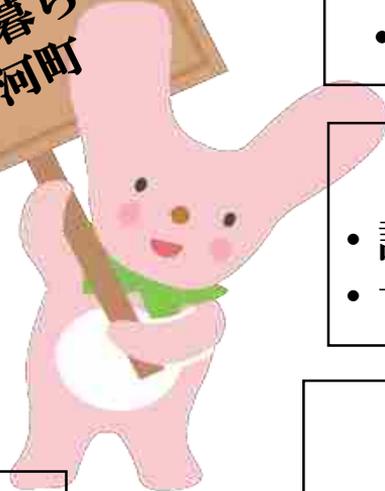
## にじ色カフェ（認知症カフェ）

ボランティアが月1回開催  
※令和4年度は開催中止

## 認知症サポーター養成講座

（小中学校・地域）

認知症になっても  
安心して暮らせる  
神河町



## 認知症ケアネット

『あんしんナビ』2023年一部改正

## 高齢者等安心見守り・SOSネットワーク事業

- ・福祉給食サービス
- ・傾聴ボランティアの訪問
- ・緊急通報システム

## 認知症対策WG会議

- ・認知症当事者の声を聴く会
- ・世界アルツハイマーデーの啓発

## 介護者の会

- ・たまゆらの会
  - ・地域サロン「らくや」
- 社会福祉協議会・介護事業所が定期的に開催

## 認知症初期集中支援チーム

（2ヶ月に1回実施）

# 標題 神河町における認知症初期集中支援チームの効果

## 令和4年度 認知症初期集中支援会議の実績（チーム員会3回/年）

	性別	年齢	世帯	認知症の診断	結果
1	女性	80歳代	息子と2人暮らし	あり	家族からの支援があまり受けられないケースであったが、介護保険を申請し、介護サービス導入（グループホーム入所）に繋がった。
2	女性	70歳代	1人暮らし	あり	初回の医療機関への受診時に認知症専門看護師が立ち会い、家族への説明と担当医への事前の情報提供によりスムーズに受診でき、その後、介護サービス導入に繋がった。
3	男性	80歳代	1人暮らし	なし	認知症専門看護師から主治医に情報提供し、主治医から神経科に受診するよう促した結果、神経科受診に繋がった。

## 【認知症初期集中支援事業の効果と課題】

### 《効果》

- 専門職の意見を聞くことができ、対象者にとってよりよい支援を導き出すことができる。
- 今後の認知症の進行を見越した支援の検討も行うため、対象者だけではなく、担当のケアマネージャーの支援にも繋がっている。

### 《課題》

- 認知症初期（早期）の段階では、本人に自覚はなく、本人・家族が介入の必要性を感じていないため、対象者の選択が難しい。

- 最後に・・・

まだまだ認知症に対する理解が本人・家族に浸透していないことで、必要な支援に繋がるまでに時間を要します。本人・家族が認知症に対して正しく理解し、必要な支援に繋がり、認知症当事者が住み慣れた地域で安心して生活ができるように、これからも支援していきます。

# 令和4年度

## 【相生市】 認知症地域支援推進員活動報告

### 【相生市】 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：9名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - ・オレンジ・サロン（認知症カフェ）の運営支援
  - ・認知症ケアネットの普及・啓発
  - ・ロバ隊長の会（認知症担当者連絡会）への参加
  - ・見守りSOSネットワークの普及、啓発
  - ・認知症の本人、家族への支援、認知症家族の会の運営
  - ・認知症予防、早期発見に関する事業
  - ・認知症のある方の見守り支援（地域づくり講座）の実施

報告者氏名：（相生市長寿福祉室）川部 純平  
（相生市地域包括支援センター）矢竹 いち子

# 【相生市】 認知症施策全体図

新オレンジプラン七つの柱	相生市の取り組み
①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症サポーター養成講座</li><li>・ キャラバンメイト連絡会の開催</li><li>・ サポーター、キャラバンメイトのフォローアップ研修の実施</li></ul>
②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症ケアネットの作成、普及啓発</li><li>・ 認知症地域支援推進員の配置</li><li>・ 認知症初期集中支援チーム配置</li><li>・ 認知症早期発見事業</li><li>・ もの忘れ相談会（月1回）</li></ul>
③若年性認知症施策の強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・ もの忘れ相談（月1回）</li><li>・ 若年性認知症家族の会（R4は実施見合わせ）</li></ul>
④認知症の人の介護者への支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ オレンジ・サロン（認知症カフェ）の設置、運営支援、普及啓発</li><li>・ 家族会（オレンジの会）の設置、運営</li></ul>

# 【相生市】 認知症施策全体図

新オレンジプラン七つの柱	相生市の取り組み
⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・相生市見守り事業の実施（見守りグッズの交付）</li><li>・見守りSOSネットワークの普及、啓発</li><li>・ひとりあるき高齢者家族支援サービス事業（GPSの貸与）</li><li>・成年後見、市民後見制度の利用促進</li><li>・認知症相談センターの設置（包括内）</li><li>・高齢者虐待防止に向けた取り組み</li><li>・介護予防推進講座における認知症講話</li><li>・地域づくりの推進講座</li><li>・自動車免許返納時の情報提供</li></ul>
⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・認知症予防教室</li></ul>
⑦認知症の人やその家族の視点の重視	<ul style="list-style-type: none"><li>・オレンジ・サロンの設置、運営支援、普及啓発</li><li>・若年性認知症家族の会</li></ul>

# 認知症を介護する家族の会(オレンジの会)の開催

< 家族会開催の目的 >

認知症の介護は精神的なストレスを抱えることが多く、介護をしている家族同士の交流を深めることや情報を共有することを目的として開催する。

< 経過 >

R 3. 7月 家族会開始 1名のみ参加

月1回開催するが、その後も2～3名の参加。参加者が増えないのはなぜ?との思いから、ケアマネジャー対象に家族会についてのアンケートを実施する(R 4. 6月実施)。

\* アンケート結果

居宅介護支援事業所と小規模多機能型居宅介護のケアマネジャーに回答を依頼。

23名から回答あり。

認知症のある方を介護する家族同士の交流の機会が必要と思うか?との問いに、22名のケアマネジャーが必要と思うと回答。

アンケートからケアマネジャーも家族会の必要性を感じていることがわかり、ケアマネジャーを通じて参加者を募った。

R 4. 8月からケアマネジャーの案内により参加者が増えはじめる。

R 4. 8月 家族4名 ケアマネジャー2名参加

9月 家族7名 ケアマネジャー2名参加

～

R 5. 3月 家族3名参加

だいたい5～6名で参加者が固定されて家族会らしくなってきた。

\* 家族会の内容

参加家族が話をしたい、話をするだけでいいと希望され、特にメニューは決めずに家族同士話をしていただいている。

\* 家族会の効果

近況報告をするなどしながら回を重ねるごと、  
家族同士の話も弾むようになってきた。

「とにかく話がしたい」と話される方がおられたり、お互いにいたわりあうような場面もみられるようになってきた。





## オレンジの会 開催の様子

- ・市内にある福祉用具販売店のスペースをお借りして。
- ・珈琲や紅茶など、好きなものを飲みながら。
- ・手書きの名札を用意して、あたたかい雰囲気でお互いが話せるように心掛けています。

<今後の家族会について>

家族が認知症と診断された時、とまどったり、悩んだり不安になる気持ちを抱える人がほとんどではないかと思う。大切なことは家族が一人で抱えて悩まないことであり、そのために仲間づくりが必要であると考えている。

家族が仲間と出会え、つながりを持ち、多くの人と支えあえるような家族会となるよう今後も見守っていきたい。

# 令和4年度 赤穂市認知症地域支援推進員活動報告

- 1 認知症地域支援推進員 6名(専任1名、兼任5名)
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - (1)認知症初期集中支援事業の推進
  - (2)認知症サポーター養成の推進
  - (3)チームオレンジの設置及び活動支援
  - (4)認知症カフェの設置及び活動支援
  - (5)認知症ケアパスの作成及び活用
  - (6)若年性認知症の人と家族の支援

報告者氏名 折原 和彦

# 赤穂市認知症施策全体図

・認知症を理解し、備える(共生と予防)

\*気づく 民生委員、住民、在宅介護支援センター、警察等からの情報

\*つなぐ ケアマネジャー、リハビリ専門職、福祉事務所等との連携

\*支える チームオレンジ、認知症カフェ、医療・介護・福祉サービス支援

・フレイル予防で認知症予防・・・フレイル予防の切り札「え・こ・う・し」が合言葉

\*えこうし運動(栄養・口腔・運動・社会参加の頭文字)



# チームオレンジ その設置・運営・育成

\* 地域共生社会・認知症バリアフリーの実現に向けての取組

\* 社会的背景に対応し、チームによる一体的支援の開始

- 平均寿命が延び、高齢者の5人に1人が認知症になる見込
- いきいき百歳体操や認知症カフェなど支え合い活動の活発化
- 認知症サポーターステップアップ講座でのサポーター充実
- それを一步進める取組みが「チームオレンジ」活動
- 令和4年12月、いきいき百歳体操を拠点に2つのチーム誕生

# ◇天神山チームオレンジ◇

設置 赤穂市折方天神山地区(天神山集会所)令和4年12月設置

運営 いきいき百歳体操団体 約30人 スタッフは10人

概要 赤穂市西部、折方地域の天神山地区

・昭和40年代に塩田跡地に大手電機会社工場が立地、阪神地区の同じ電機会社の多くの従業員が転勤し、発展した地区

・国道沿いの小高い山が宅地造成された立地で、坂道に1軒家が並んでおり、市中心部からは、車で約20分の距離

・住民は、ほぼ同時期に転入し、順々に定年を迎えている。

・天神山自治会は、令和3年12月で人口403人、高齢者225人で高齢化率は、55.8%で同時期の市の高齢化率33.4%を大きく上回っている。

・モットーは、百歳体操に出てこない人へ守り、声掛けの継続、そのような人のために、純喫茶「天神さん」を開設、開放

# ◇チームオレンジ うみ・かふえ◇

設置 赤穂市坂越東之町地区(坂越防災交流館)令和4年12月設置

運営 いきいき百歳体操団体 約30人 スタッフは10人

概要 赤穂市南部、坂越地域の坂越ふるさと海岸に交流館は立地

- ・北前船の風待港であり、高台の神社からの瀬戸内海の渚は絶景
- ・港に続く石畳の街並みに造り酒屋や古民家活用の喫茶、商店が並ぶ
- ・日曜と第2・4木曜にいきいき百歳体操をメインに音楽会、紙芝居なども実施
- ・助け合う地域づくり、自然災害から命を守るための防災教育も実施
- ・第1・3木曜に商店減少に対応した移動・買物支援も実施
- ・令和4年4月に認知症カフェも開始し、軽食等も提供
- ・参加者は、坂越地域のみならず、地域外や市外参加者もある。
- ・いきいき百歳体操に来ない人には、見守りや参加の声掛けを継続実施

# ◇チームオレンジに期待できること(メリット)◇

## チームオレンジのある地域にとって

- ・見守り活動や支援で地域の新しい絆が生まれる
- ・認知症の人が住み慣れた地域で長く生活できる

## オレンジメンバー(支え・支えられる人)にとって

- ・自分達の活動が社会に貢献しているという実感
- ・活動による新しい仲間づくりや健康維持と増進

## 社会全体(自治体など)にとって

- ・ゆるやかに支え合うチームで高齢社会を乗り切る
- ・そのチームをモデルとして深め、広げていける

# ◇チームオレンジの充実について◇

\* チームオレンジのメンバーのスキルアップ

☞ ジャンプアップ講座(ロールプレイ、グループワーク)

\* チームオレンジ間の交流による情報交換

☞ チームオレンジ連絡会(2か所のチーム、地域包括)

\* 新たなチームオレンジの設置

☞ 拠点型および日常生活圏域での設置



# ◇これからの思いと展望◇

- \* 認知症は、長寿社会では避けて通れない「症状」といえます。
- \* 長寿社会で大切なのは、「支え・支えられる」を合言葉とした地域づくりです。
- \* そのため、お互いを支え合う「認知症サポーター」のエネルギーの結晶として「チームオレンジ」の育成・支援が大切です。
- \* 認知症サポーターのシンボル色であるオレンジは「手助けします」という意味があり、「チームオレンジ」は、活動のエネルギーを感じる快い響きです。
- \* 令和4年度に誕生した「チームオレンジ」は、ひとつの手段であり、支え合う地域の実現が目的です。

# 令和4年度 宍粟市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

①地域住民への認知症の正しい理解の啓発

認知症に関する講演会や講座の開催、市の取り組みの周知

認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の開催支援、認知症キャラバン・メイト連絡会の開催  
チームオレンジの立ち上げ

②認知症ケアの質の向上

認知症介護専門職研修の企画、調整

③多職種連絡会の企画、調整

認知症施策検討会

④認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族に対する相談支援、家族の集いの開催

オレンジカフェ（認知症カフェ）の運営支援、オレンジカフェ連絡会等の開催

認知症初期集中支援事業の推進

高齢者等見守り支援（SOS登録）や高齢者声かけ訓練・伝達訓練の実施

⑤認知症ケアパスの見直しと普及、リーフレット作製

報告者氏名：吉田典子 菅谷美佳 取越かおり

# 宍粟市 認知症施策全体図

認知症の人や家族が 安心して暮らせるまちをめざして



## 認知症施策の推進

認知症施策検討会

### 適時・適切な医療・介護等の提供

相談窓口の普及・啓発  
認知症地域支援推進員の配置  
認知症初期集中支援チーム  
認知症予防健診

### 人材育成

認知症介護専門職研修

### 予防

フレイル・認知症予防運動教室  
認知症予防講座、講演会

### 家族介護者への支援

オレンジカフェの普及、啓発  
オレンジカフェ連絡会  
当事者、介護者の集い開催

### 普及・啓発活動

認知症講座・講演会  
認知症に関する取り組みの周知

### 認知症サポーターの養成・活用

認知症サポーター養成講座  
認知症サポーターステップアップ講座  
認知症キャラバン・メイト連絡会  
チームオレンジの立ち上げ

### ひとり外出見守り・SOSネットワーク

GPS機利用支援  
見守りSOSネット  
SOS協力機関伝達訓練  
高齢者声かけ訓練

### 権利擁護

成年後見センターとの連携



## 標題 宍粟市における認知症カフェの取組

当市では認知症カフェを「オレンジカフェ」と呼んでいます。オレンジカフェに対し助成事業はなく、ほとんどのカフェがボランティアで開催されており、認知症の人やその家族、また地域の人が気軽に集える場所となっています。

オレンジカフェを新規開設するときは

- ・スタッフは認知症サポーター養成講座を受講する
- ・認知症に関する相談を受けたとき、必要時に関係機関又は行政につなぐことができる



現在市内では11か所のオレンジカフェが登録されています。新型コロナウイルス感染拡大防止のためほとんどのカフェが一時活動を休止しました。まだ再開できていないカフェも多数ありますが、「今、必要だから」という思いで工夫して開催しているカフェを紹介します。

## 標題 宍粟市における認知症カフェの取組

### 1 オレンジカフェ ホット・カレン

平成29年2月開設。ボランティアで配食サービスや地域の高齢者の見守り活動をされていたグループが、オレンジカフェに賛同される。

コロナ禍で会場の広さを確保するため生活支援コーディネーターが支援し場所を変更したり、主催者の思いに賛同した地域の企業や施設が協力して運営しているカフェ。

開設当初からカフェ参加者の送迎の課題があった。地域から認知症の当事者はもちろん、高齢者が公共交通を利用してカフェに参加することは難しかった。生活支援コーディネーターが地元の企業等と連携し協力してもらえることになった。

会 場 地域貢献として、地元企業の会議室を無料で使用

送 迎 地域貢献として、地元の特別養護老人ホームのデイサービス送迎車の空き時間を利用して送迎

当日は送迎車には必ずカフェスタッフが同乗しています。約10人のスタッフがそれぞれ役割を持ち、協力して進行しています。15~20人の参加者を迎え、忙しい時もスタッフはずっと笑顔でおられます。カフェスタッフも、協力している企業、老人保健施設の人も「この地域のためだから」と笑顔で取り組んでおられます。

主催者は「チーム ホット・カレンだよ」と言って楽しそうに活動されています。



## 標題 宍粟市における認知症カフェの取組

### 2 川上さん横の花菜畑

令和4年5月開設。自宅の庭と畑を開放した花畑を見る屋外カフェ。4月～10月に月1回開催。参加者は庭のテントの下でお茶を飲んだり談笑し、野山に咲く様々な花を見ながらのんびり過ごすカフェ。

主催者は「参加した人たちがとても楽しそうで、自分の趣味だったものがみんなに喜んでもらえることがとてもうれしかった。」と話しておられた。色とりどりに咲く花を見ながら、近所の人も気軽に声をかけたり、座り込んで話したりしています。（開催日が雨天の場合は中止）



### • 最後に・・・

コロナ禍となってから、人が集ったり一緒に食事をしたりすることが制限され、カフェ活動が困難になりました。それでもカフェの主催者はその必要性を感じ、それぞれに工夫し、また地域の方たちの協力もあり、様々な人と人がつながって集いの場所が再開されてきています。そして参加者、関係者みんなの笑顔が素晴らしい。参加していると、こちらも楽しく幸せな気分になります。みんなで認知症の事を理解し、共生を目指す地域づくりに今後も関わっていきたいと思います。

# 令和4年度

## 【たつの市】認知症地域支援推進員活動報告

【たつの市】認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：6名（専従：5名 兼務：1名）
- 2 認知症地域支援推進員の役割

### 医療・介護等の 支援ネットワーク 構築

- ・認知症疾患医療センターを含む医療機関、介護サービス事業所等関係者の連携体制構築
- ・認知症ケアネット（赤とんぼ連携ノート、認知症生活べんり帳）の作成・普及

### 認知症対応力 向上のための 支援

- ・認知症に関する正しい知識の普及・啓発
- ・認知症対応力向上研修を医師会等と共催、多職種協働研修の開催
- ・たつの市キャラバン・メイト連絡会の支援、認知症サポーターの支援

### 相談支援 ・ 支援体制構築

- ・認知症予防普及啓発（個別相談、講座の実施など）
- ・認知症初期集中支援チームの主導・調整
- ・もの忘れ相談の実施
- ・認知症の相談支援、認知症カフェ等の支援
- ・若年性認知症の相談支援、若年性認知症カフェの開催
- ・はいかい高齢者等見守りSOSネットワーク構築
- ・はいかい高齢者家族支援サービス  
（GPS貸出、はいかい高齢者等お出かけリスクゼロ事業）の普及
- ・介護マークの普及



市担当者：前田 弥央

報告者氏名：福井暁子・福本久美・藤永真末・半田由紀子・木下順子

# 認知症施策推進大綱

## 【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら『共生』と『予防』を車の両輪として施策を推進

## コンセプト

○認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることも含め、多くの人にとって身近なものとなっている。

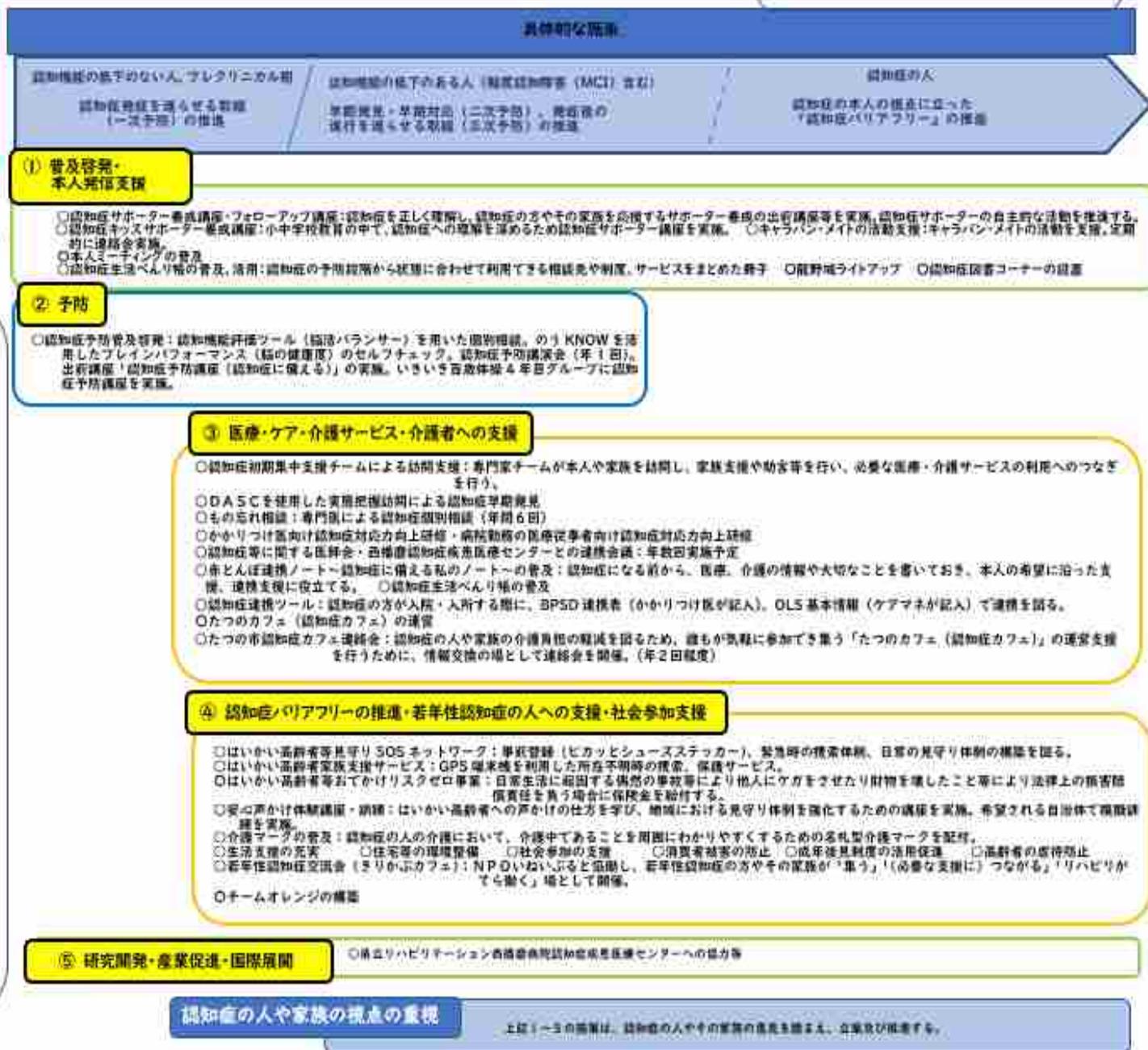
○生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前を向き、力を生かしていくことで極力それを減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。

○運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防に関するエビデンスを収集・普及し、正しい理解に基づき、予防を含めた認知症への「備え」としての取組を促す。結果として70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目指す。また、認知症の発症や進行の仕組みの解明や予防法・治療法等の研究開発を進める。

# たつの市認知症施策概要図

## 目指すべき社会

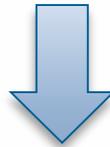
認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって過ごせる社会



<⑦>：その他 地域の見守り体制の構築  
～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～  
**初期集中支援チームに入った相談 (70代独居高齢者)**

<認知症初期集中支援チーム介入の経緯>

①警察から地域包括支援課に連絡。



②振込み詐欺被害に遭遇。警察からの防犯指導も覚えていない様子があり、複数回振込み詐欺の被害に遭遇。



③認知症が疑われ、認知症初期集中支援チームの介入となる

被害内容

ある団体から多額の資金を送るというメールあり。電子マネーを購入しIDを相手に伝える。



<⑦>：その他 地域の見守り体制の構築  
～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～  
初期集中支援チームに入った相談 (70代独居高齢者)

<認知症初期集中支援チーム介入の内容>

- ・訪問にて本人の認知機能評価実施。  
本人はもの忘れの自覚や生活の困り事はなかったが「詐欺の原因を知るための脳検査の実施」と働きかけ、受診へとつなぐ。
- ・専門医への受診支援を行う。  
かかりつけ医と連携し認知症疾患医療センター受診につなぐ。
- ・度重なる被害遭遇により親族（自宅隣在住）との関係性が悪化していたため、本人、親族、チーム員で話し合いの機会を何度も持つ。  
親族が買物、不審メールの確認を担うようになり、本人了解のもと、携帯会社でのメール受診停止に至る。
- ・本人・親族と話し合い、今後に備えて成年後見センターへ相談に至る。
- ・詐欺被害再発防止のため近隣の見守り体制（ネットワーク）の構築を図る。  
（親族、民生委員、駐在所、警察、コンビニ等）

ネットワークの構築により地域活動への  
再参加・社会的交流の増加あり

＜⑦＞：その他 地域の見守り体制の構築  
～認知症が疑われる方の詐欺被害への支援を通して～  
**支援のポイント**

1. 本人への支援

被害に遭った本人への精神的支援と認知症専門医療機関受診への支援

2. 家族・介護者への支援

傾聴と相談先の提示、介護負担軽減の為の支援

3. 医師との連携

かかりつけ医・専門医への情報提供と受診調整  
医師から本人・家族への助言・指導

4. 警察との連携

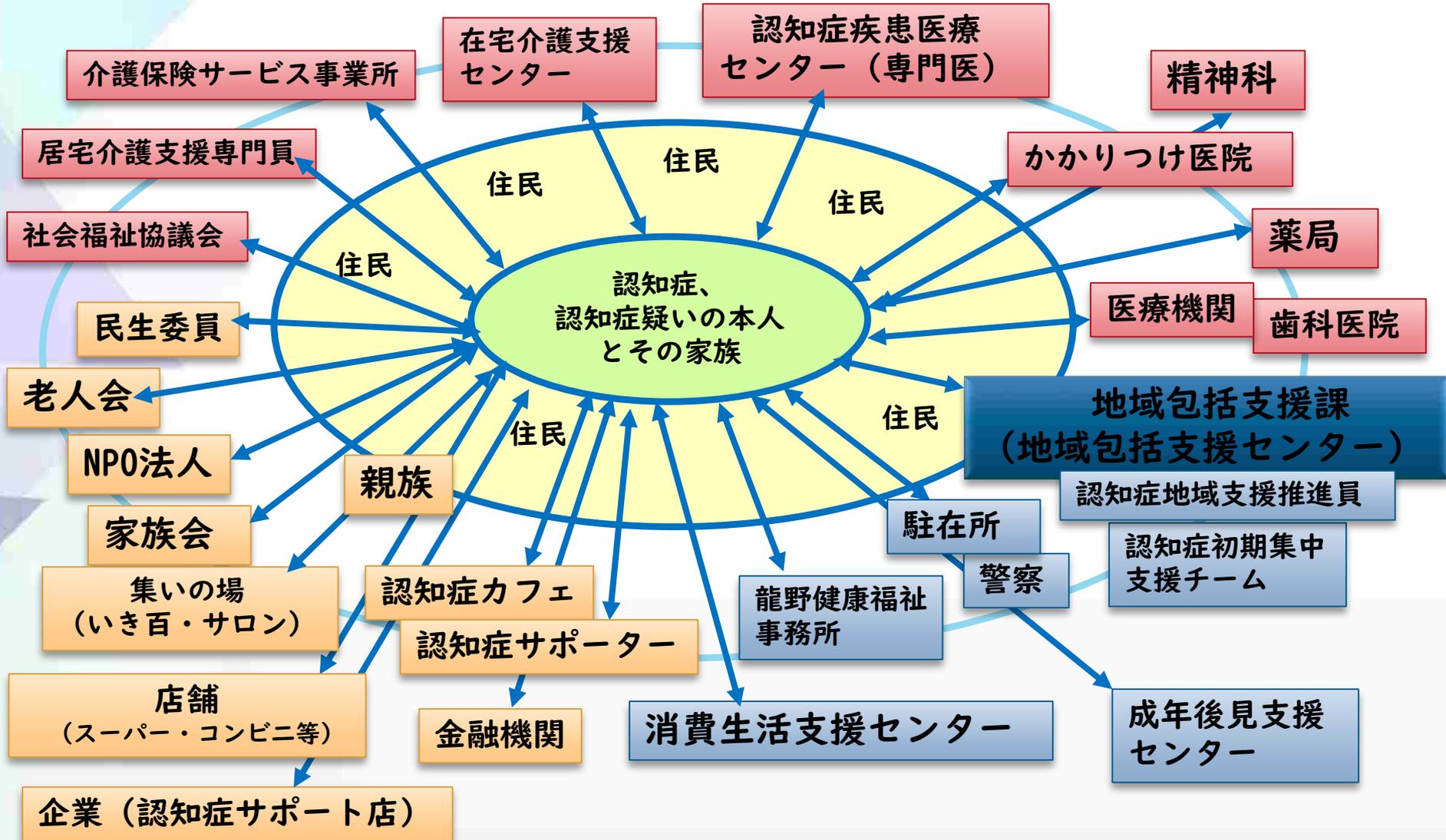
今後の被害防止に向けた対策の協議

5. 地域の見守り体制の構築

家族・民生委員・駐在所・警察・店舗（スーパー・コンビニ）・金融機関  
等への見守り依頼。平時からの情報共有、有事の際の連携について協議。



<⑦> : その他 地域の見守り体制の構築  
～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～  
**地域の見守り体制（ネットワーク）**



## <⑦>：その他 地域の見守り体制の構築 ～認知症が疑われる方の詐欺被害防止への支援を通して～ 課題と今後の取組

### ○課題

- ・ 認知症の本人とその家族が詐欺被害に遭っていることに気付かない。
- ・ 詐欺で問題を抱えている高齢者に対する周囲の気付きが十分でない。
- ・ 詐欺で問題を抱えている高齢者の相談先の周知が十分でない。
- ・ 何度も詐欺被害に遭遇する高齢者に対して、認知症かもしれないという周囲の気付きや判断力が十分でない。

### ○今後の取り組み

- ・ 多職種との連携強化（事案発生前からの見守り体制の構築と充実）  
警察・かかりつけ医・専門職・ケアマネ・民生委員・近隣住民・よく利用する店舗など  
地域全体で見守り体制を強化していくことが必要。  
→地域全体で詐欺被害に気づく事ができ、ストップがかけられる町づくり
- ・ 広報・ホームページ・認知症サポーター養成講座等で高齢者の被害の実態と相談先、  
認知症による被害を見据えた対応について周知を図る。  
→地域で必要に応じてチームオレンジが立ち上がり、問題を抱えた認知症の方の支援に取り組む。

認知症になっても  
安心して自分らしく暮らせるまちへ



# 令和4年度 太子町 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - ・認知症の人やその家族の相談や、医療や介護等関係機関へのつなぎ
  - ・支援を行う関係者が、情報交換や支援事例の検討などを行う連絡会議の設置
  - ・地元医師会や認知症サポート医とのネットワークの形成
  - ・認知症ケアパスの作成・普及
  - ・認知症の人と家族を支える地域の人材やサービス拠点についての情報収集
  - ・在宅介護サービス従事者への認知症研修の実施

報告者氏名：石橋 ありさ  
(町担当及び認知症地域支援推進員)

# 太子町 認知症施策全体図 (令和5年3月31日現在)

## 認知症予防の推進

- ・ 出前講座「認知症にならないために」 実績：2回、25人
- ・ いきいき百歳体操 59グループ活動 認知症チェックを実施
- ・ もの忘れ相談 \*要予約・無料  
月1回、臨床心理士による検査と相談を実施  
実績：10回、27人（異常なし：13人、異常あり：14人）
- ・ 認知症予防教室(社協委託) 11回実施、19名参加

## 医療体制の充実

- ・ かかりつけ医認知症対応力向上研修 1回実施
- ・ 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 1回実施

## 地域支援ネットワークの強化

- ・ 太子町オレンジライフサポート（認知症ケアパス）
- ・ 高齢者等安心見守りネットワーク事業 105事業所と協定締結
- ・ 高齢者等徘徊SOSネットワーク事業 33名登録
- ・ 太子町あんしん見守りキーホルダー登録事業 1,124名登録
- ・ 認知症サポーター養成講座  
11回実施、573名のサポーター誕生  
累計サポーター数：6,861名  
(うちキッズサポーター 4,187名)
- ・ 認知症サポーターフォローアップ講座 1回実施、8名受講
- ・ チームオレンジ 令和3年3月より設置
- ・ 認知症カフェ（オレンジカフェ）町内3ヵ所 うち1ヵ所開催
- ・ 本人ミーティング(オレンジ広場)の実施  
17回実施、対象者5名、延べ参加数57名

# 標題 太子町における認知症予防への取組

## 令和4年度の活動経過

令和3年3月『チームオレンジ太子』を発足したものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベント等での認知症啓発活動は全て中止。令和4年度になり、徐々にイベント等が再開。

→①認知症講演会&映画上映会、②あすかふるさとまつり開催決定。  
それを受け、チームオレンジの活動も再開へ。

### ①認知症講演会&映画上映会(令和4年9月11日開催)会場ロビーでの 認知症啓発コーナー設置

- ・コグニサイズ体験コーナーを設置 45名参加
- ・オレンジTシャツを着用して元気に活動しました。

### ②あすかふるさとまつり(令和4年11月3日開催)へ出店

- ・コグニサイズ体験コーナーを設置
- ・認知症啓発資料の展示、配布
- ・認知症サポーターキャラバンマスコットキャラクター「ロバ隊長」の革製作
- ・認知症カフェの啓発 等 150部配布

# 実施の効果及び課題

## ■実施の効果

認知症に関するチラシの配布だけではなく、実際に体験してもらうことで意識づけが高まり、日々の生活での行動変容につながる機会になった。

(参加者の声) ・参考になった

・認知症予防のために、これからも続けたい

## ■今後の課題と取組み

認知症施策推進大綱の基本的考え方にもある「予防」と「共生」社会の実現には、まず認知症に対する正しい知識の普及啓発が必要。

⇒機会を見つけて継続した取組みを実施していくことが必要。



最後に・・・

共生社会の実現に向けて、大切な仲間とともに、焦らず、できることから、コツコツと☆彡

# 令和4年度 上郡町 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - ・ 認知症初期集中支援チーム員
  - ・ 認知症ケアネットの作成
  - ・ SOSネットワークの構築
  - ・ 認知症予防健診後のフォロー訪問
  - ・ 認知症サポーター養成講座の開催、チームオレンジ活動
  - ・ 認知症普及啓発イベント
  - ・ 介護者のつどい、本人ミーティングの開催
  - ・ 認知症出前講座の開催 等

報告者氏名： 市町担当 松本杏奴 認知症地域支援推進員 上田元子

# 上郡町 認知症施策全体図

## 国のすすめる認知症施策推進大綱

### 1. 普及啓発・本人発信支援



### 2. 予防

### 3. 医療・ケア・介護サービス・ 介護者への支援



### 4. 認知症バリアフリーの促進・ 若年性認知症の人への支援・ 社会参加支援



### 5. 研究開発・産業促進・国際展開

## 上郡町の認知症施策の取り組み

- ・アルツハイマー月間における普及啓発イベント
- ・認知症サポーター養成講座
- ・本人ミーティングの開催
- ・認知症相談窓口（地域包括支援センターに設置）の周知

- ・通いの場立ち上げ・継続の支援、広報
- ・健康教育における認知症予防講座



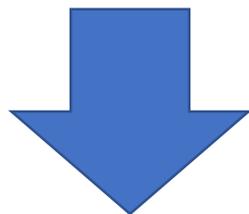
- ・認知症初期集中支援
- ・認知症健診
- ・介護者のつどい
- ・もの忘れ相談
- ・認知症ケアネットの作成

- ・SOS ネットワークの構築、認知症高齢者等声かけ模擬訓練の開催
- ・GPS 貸出助成事業
- ・チームオレンジ構築（ステップアップ講座の開催）
- ・成年後見制度の利用促進  
（西播磨成年後見センターの設置、成年後見制度相談窓口の周知  
健康教育における成年後見制度に関する講座 等）

## 標題 上郡町における認知症普及啓発事業の効果

### 上郡町の現状

- 高齢化率が約40%を上回り、年々高齢者の数が増加している
- 近隣との交流が少なく孤立してしまう独居高齢者が多い
- 相談先が分からず、かなり生活に支障が出る程度になって初めて相談に来られる
- 令和3年度介護保険新規申請のうち、認知症が理由の方が24.8%を占めていた
- 窓口や電話等での相談内容の多くが認知症に関わることだった



もっと認知症のことを知ってもらい、早期からの支援が必要！

# そこで…

1人でも多くの人に認知症のことを知ってもらうため、令和4年度のアルツハイマー月間では町内のスーパー等の店頭で認知症啓発グッズを配布しました。

日時：令和4年9月21日（水）

配布場所：旬菜蔵、ボンマルシェ、コープ上郡、マックスバリュ上郡店

参加者：上郡町地域包括支援センター職員 8名

チームオレンジメンバー 5名



例年は地域包括支援センターの地域支援推進員で配布していましたが、令和4年度よりチームオレンジが始動したので、メンバーには活動の1つとして参加していただきました！

# 啓発活動を終えて...

店頭に立ってグッズを手渡しすることで住民に直接声をかけることができました。ある店舗では実際に住民の相談に乗っている推進員もいました。



チームオレンジの方も積極的に声をかけておられ、より良い普及啓発に繋がったと思います。

「認知症の相談窓口が地域包括支援センターであること」を知らない方がまだまだいるので、認知症地域支援推進員としてもっと私たちの取り組みを知っていただけるように、積極的な普及啓発を行いたいです。そして、認知症の有無に関わらず誰もが住みよい町を目指したいと思います。



# 令和4年度 佐用町 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：5名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

### 認知症施策推進大綱に基づき

- ①普及啓発・本人発信支援
- ②予防
- ③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症のかたへの支援・社会参加支援

報告者氏名:舟引 明日香

# 佐用町 認知症施策全体図

	事業内容
①普及啓発・ 本人発信支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症サポーター養成</li><li>・ 世界アルツハイマーデー及び認知症に関するイベント等の普及系活の取組の実施</li><li>・ 相談先の周知</li><li>・ 認知症のかた同士が語り合う「本人ミーティング」の実施等を通じた本人の意見の把握、施策の企画・立案、評価への本人視点の反映</li></ul>
②予防	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症に関する調査研究の推進及び高齢者などが身近に通うことができる「通いの場」などの充実や「通いの場」等におけるかかりつけ医・保健師・管理栄養士などの専門職による健康相談などの認知症予防に資する可能性のある活動の推進</li></ul>
③医療・ケア・ 介護サービス・ 介護者への支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療・ケア・介護サービス →認知症地域推進員の活動の推進 →認知症初期集中支援チームの活動の推進</li><li>・ 認知症の特性を踏まえた介護サービスの提供・確保</li><li>・ 介護者などへの支援 →認知症カフェを活用した取組、家族教室や家族同士のピア活動</li></ul>
④認知症バリアフ リーの推進・ 若年性認知症の かたへの支援・ 社会参加支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症バリアフリーの推進 →見守り・SOSOネットワークの構築</li><li>・ チームオレンジの構築</li><li>・ 成年後見制度利用促進法や成年後見制度利用促進基本計画にもとづく権利擁護の取組の推進、市民後見人の育成・活用、支援組織の体制整備</li><li>・ 若年性認知症のかたへの支援・社会参加支援</li></ul>

## **標題 令和4年度 認知症予防教室（頭と体の健康教室）**

平成26年から教室を開始。一般介護予防事業

### **【令和4年度活動経過】**

実施期間：令和4年10月4日～R5年3月14日  
（合計21回）  
毎週火曜日実施

### **【参加者状況】**

参加人数：29人（うち自習10人）

延べ人数：536人（うち自習175人）

※教室を3回以上経験された受講生は自習グループ。

## 【教室内容】

		サポーター体制
くもんの学習（テキスト）	くもん学習教材（30分） ・週1回の教室と次の教室までの宿題がある。	2人に対して サポーター1人
自習グループ	自習学習（30分）	5人に対して サポーター1人

・学習の他、いきいき百歳体操（30分）を実施

※教室サポーター：1回教室ごとに8人勤務

内訳：学習5人、体操2人、自習1人

## 【評価について】

評価時期：10月・3月

評価方法：体力測定・かなひろいテスト

## 【効果について】

- ・テキストを利用している人の多くの方が維持・向上できていた。
- ・測定値を全員に渡し「現状」を知ること、「維持」していくことが大切だと伝えた。
- ・また継続して運動することを提案。  
町内のいきいき百歳体操が40か所あり、住んでいる地域外でも参加できる教室があることを伝えた。

(サポーター向け)

- ・フォローアップ研修として9月に研修を行った。

内容：学習療法センターによる講義

理学療法士によるいきいき百歳体操の方法・体力測定の方法について

(募集方法)

広報・防災無線放送・民生委員会・窓口での案内 等

- ・最後に・・・(来年度に向けて)
- ・対応枠が増えるように教室サポーターを募集する。
- ・多くの人に参加してもらえるように広報活動を継続していく。
- ・受講者向けの理学療法士による体操の指導の機会がない。来年度は理学療法士の指導や体力測定の結果説明の機会を作る。
- ・教室を卒業後、その他の活動へとつなげられるよう情報提供していく。
- ・来年度は教室に参加することで【卒業後どんな生活を送れるようになるりたいか】を最初に目標を立ててもらい、目標に近づける様に支援していきたい。

# 令和4年度 豊岡市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 2 名
- 2 認知症地域支援推進員の役割： 認知症施策担当
  - (1)普及啓発・本人発信支援
  - (2)予防
  - (3)早期発見・早期対応
  - (4)医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
  - (5)認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

報告者氏名： 林 恭子      山田 晃子

# 豊岡市 認知症施策全体図①

視 認 し 知 て 症 、 の 取 人 組 や み そ を の 行 家 う 族 の 視 点 を 重	五つの柱	豊岡市の取り組み（第8期）
	①普及啓発・ 本人発信支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 認知症サポーター養成と受講後の活動の支援</li> <li>b. 認知症キャラバンメイトの活動支援</li> <li>c. 身近な場における認知症理解の普及・啓発</li> </ul>
	②予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 認知症予防講座の開催</li> </ul>
	③早期発見・ 早期対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 地域包括支援センター等に早期に相談につながる仕組みづくり</li> <li>b. 認知症疾患医療センター、かかりつけ医等との連携</li> <li>c. 認知症ケアネット（国：認知症ケアパス）の周知・活用</li> <li>d. 認知症初期集中支援チームの周知・活用</li> </ul>

# 豊岡市 認知症施策全体図②

て、認知症の人やその家族の視点を重視し、取り組みを行う	五つの柱	豊岡市の取り組み（第8期）
	④医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 認知症地域支援推進員の設置</li> <li>b. 介護従事者等に対する研修・事例相談会の開催</li> <li>c. 認知症の人と介護者への支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェの周知</li> <li>・認知症カフェ等の立ち上げ支援および運営支援</li> <li>・認知症家族介護教室の実施</li> </ul> </li> </ul>
	⑤認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 若年性認知症の人と家族への支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の周知</li> <li>・若年性認知症の人と家族のつどいの実施</li> <li>・若年性認知症生活支援相談センター等との連携</li> <li>・当事者の居場所づくり・社会参加への支援</li> <li>・当事者および家族の思いの発信</li> </ul> </li> <li>b. 権利擁護の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者行政窓口、弁護士会等職能団体との連携</li> <li>・市民後見、法人後見の検討</li> <li>・権利擁護研修会の実施</li> </ul> </li> <li>c. 地域見守り体制の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者見守りネットワークの充実</li> <li>・認知症高齢者等見守り・SOSネットワークの充実</li> <li>・個別ケア会議の開催</li> </ul> </li> </ul>

## 標題 豊岡市 身近な場における認知症理解の普及・啓発

### ～R2 認知症フォーラムの実施



イベント型の普及啓発  
参加者が限定されてしまう・・・

### R3 DVDの作成 「認知症とともに～身近な場における認知症の普及啓発～」

<工夫>

- ・認知症という疾病感を変えられるよう、「認知症」ではなく「人」をみる
- ・分割して視聴することが出来るよう2本立て
- ・視聴しながら、考えてもらえるような内容



地域やコミュニティなどの身近な場での普及啓発に転換  
いつでもどこでも参加できるようにしたい！

### R4～ DVDの貸出による普及・啓発

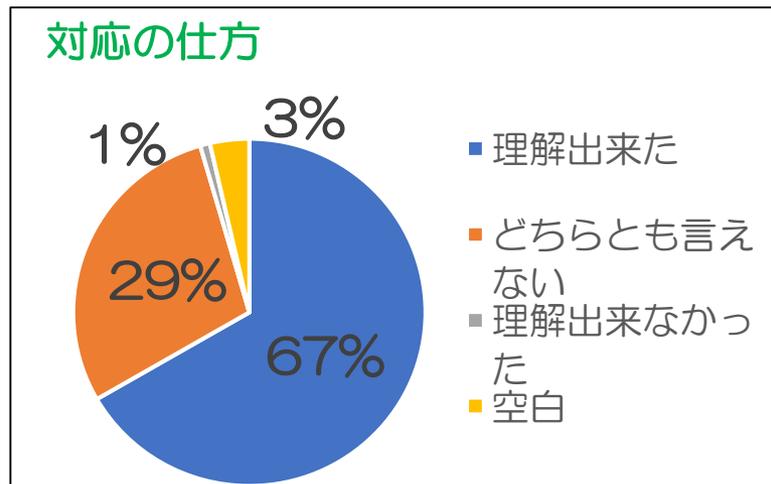
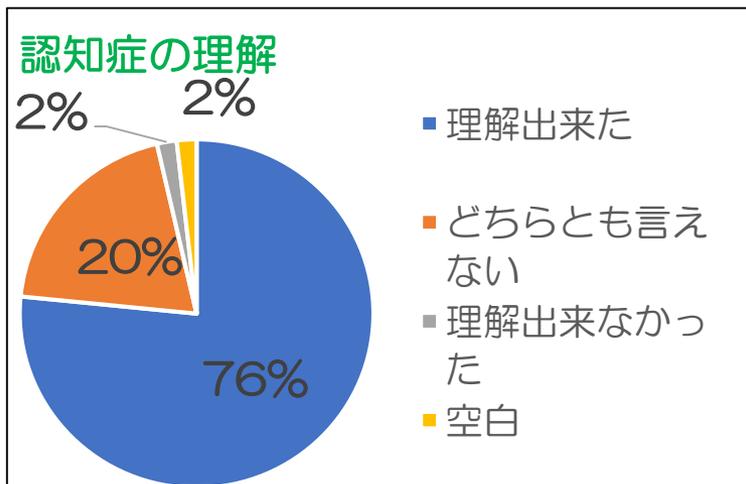
- ・HPや市広報、地域への周知

貸出回数	視聴人数	貸出団体
14回	202人	民生委員研修会 老人会 訪問介護事業所 等

※希望により、保健師や作業療法士を派遣し、DVDの内容を補足するなどの講話も行った。

## 標題 豊岡市 身近な場における認知症理解の普及・啓発

### 視聴後のアンケート結果



#### 認知症の人へどのような支援ができるか

- ・見守り、声掛け、よりそい
- ・地域のコミュニケーションの必要性を感じた
- ・普段からの近所付き合いが大切

など

#### 地域として認知症の方へどのような取り組みができると思うか

- ・集まりへの参加を促進する
- ・地域で顔の見える取り組み
- ・ゴミ出しや回覧板など、身近なことから取り組みたい

など

## 標題 豊岡市 身近な場における認知症理解の普及・啓発

### DVDを作成して感じたこと

⇒視聴している様子や感想から、「難しかった」という意見もあったが、「自分事として捉える機会となった」との意見が多かった

⇒会場では視聴しながら、認知症についての様々な思いを参加者同士で話し合う姿があった

⇒参加者の多くは、家族や身近な人が認知症だったという介護の経験があった。家族を含め地域全体に、認知症についての正しい知識の普及・啓発が必要と感じた

#### • 最後に…

今後さらに、DVDを視聴していただく機会をどのようにPRしていくかが課題

市民だけでなく、専門職にも認知症の理解を促し、どのようにかかわっていくのかを考える機会になる内容なので、地域の団体に限らず広めていきたい

認知症とともに生きる社会にするために、正しい知識の普及・啓発を行うと同時に、今、実施している認知症施策を充実させながら、当事者や家族が安心して暮らすことのできる地域づくりを目指していきたい

# 令和4年度 朝来市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - 認知症施策の組み立て
    - 認知症に関する地域ケア会議「脳耕会」の運営
  - 認知症高齢者等SOSネットワークの運営と推進
  - 認知症ケアパスの活用と推進
  - 認知症初期集中支援チームの運営と連携
  - 介護者支援として認知症カフェの支援
  - 認知症キャラバン活動の運営と支援
  - チームオレンジのによる本人、家族、地域のしくみづくり
  - 認知症相談センターとの連携の強化
  - 若年性認知症の人と家族の支援と検討

報告者氏名： 小畑 知見

# 朝来市 認知症施策全体図

## ●認知症施策全般の検討と推進

脳耕会

住み慣れた地域で安心して暮らし続ける共生社会の実現

認知症の人や介護者への支援を包括的に実施できる体制の充実

認知症相談の身近な窓口の周知  
認知症サポーター養成講座  
キッズサポーター養成講座  
認知症チームオレンジの活動  
あさごいきいき百歳体操

認知症初期集中支援チーム  
認知症SOSネットワーク  
認知症高齢者等GPS助成事業  
損害賠償責任保険加入事業  
認知症カフェの充実

認知症一体的支援プログラムモデル事業の準備

若年性認知症の人と家族への支援の充実



# 標題 朝来市におけるチームオレンジにむけた取り組みについて

## 高齢者（88）の暮らしについて

5年前突然に  
逝去。

夫  
逝去

本人  
88歳

養介護 1

物忘れがありゴミの  
日が曖昧になったり、  
出し方で近隣とトラ  
ブルになる。

本人の思い

「忘れることが増え  
てきた。迷惑をかけ  
ないようにしたい」

結婚し、京阪  
神で生活。た  
まに帰省し支  
援をしている。

長女  
54歳

次女  
52歳

2年前から連  
絡がつかない。

※個人情報保護のため名前は仮名です。



ゴミの出し方がおかしい。ゴミの日ではない時に出ていることもある。  
ちゃんとしてくれな困る！と駐在所に通報。

## 【翌週の公民館にて】

- 長女
- 民生委員の声掛けで、区長、近隣者数名が参集
- 駐在所の警察官
- 専門病院の公認心理士がアドバイザー
- ふくし相談支援課が会議を主催

本人の暮らし支えるメンバーが集まり、個人情報を守りながら、頭を寄せ合い生活が出来る方法を考える会



# 向こう三軒両隣会議の成果➡チームオレンジへ

## ●長女から



- ・母は物忘れがあり日にちも分からなくなることがある。
- ・ゴミの日を忘れないようにゴミ箱に曜日を書いたり、カレンダーに書いたりしている。

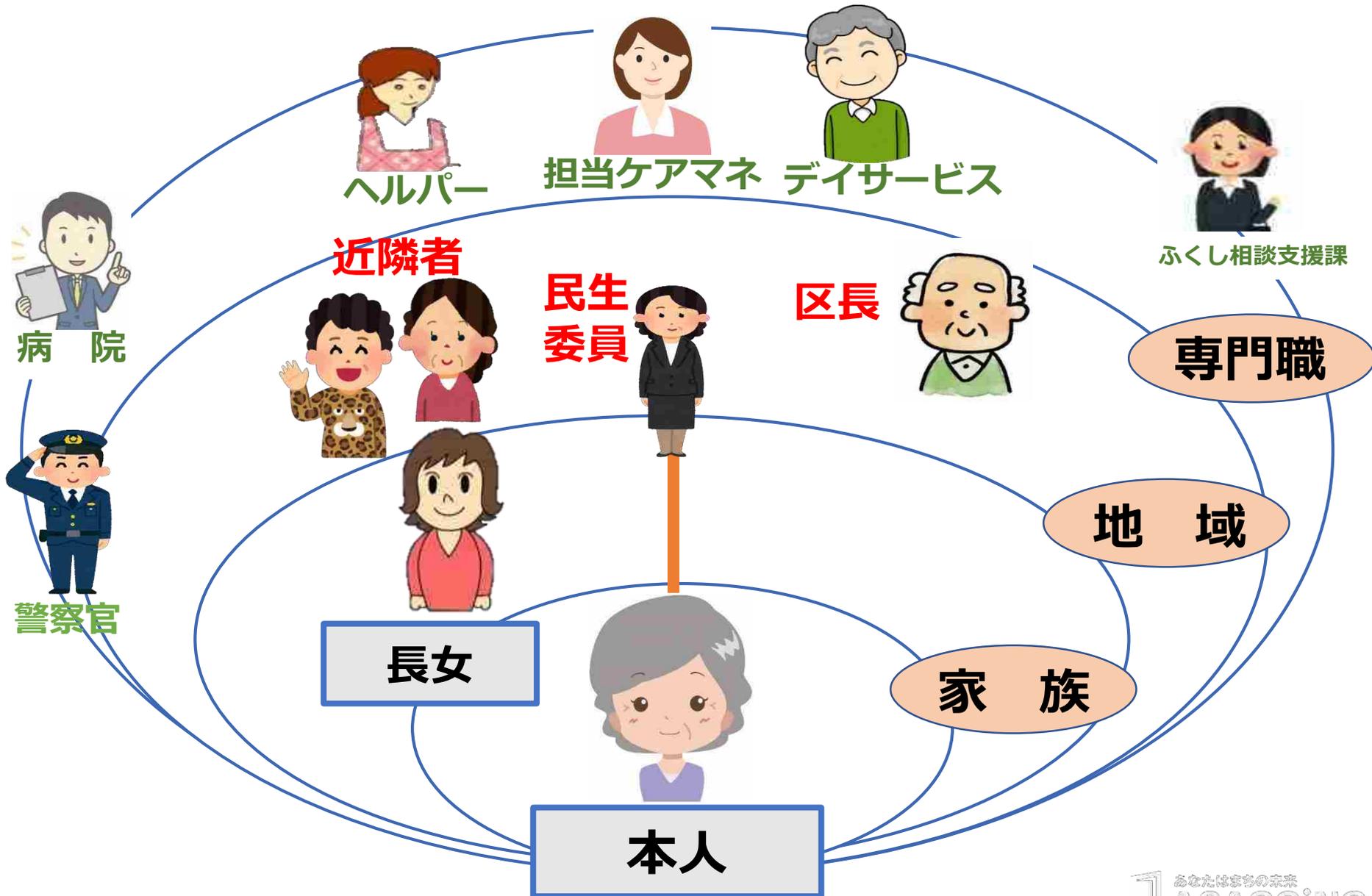
●認知症の症状についての理解、本人への声のかけ方などを専門医療のアドバイザーから説明することにより認知症の理解促進

## ●地域住民からの提案



- ・認知症であることは知らなかった。
- ・指定のゴミ袋を使っていなかったら、我が家のゴミ袋で出しておくわ。
- ・曜日がわからないから地区の体操に来れなくなってたんやな。声をかけるわ。

# 高齢者(88歳)の暮らしを支えるチームオレンジの仕組み



# 高齢者(88歳)の暮らしを支えるチームオレンジの効果

## ● 本人について



- ・ 本人は相変わらずゴミの日を間違え、指定のゴミ袋を使用せずにゴミを出すこともあるが、いまのところはトラブルになっていない。
- ・ 地域の人気づいたら、指定のゴミ袋に入れ替えたり、こっそりと家に持ち帰ってくれている。

## ● 地域について (チームオレンジ)

- ・ 気になる人がいれば相談し、みんなで声をかける、見守るというスタイルが浸透してきた。

### ・ 最後に・・・

個別の地域ケア会議から認知症状の理解、声のかけ方などより具体的に地域に伝えることができました。認知症を理解したうえで地域からの見守り支援は当事者が自分らしく暮らし続けることのできる地域づくりにつながったと思います。今後も当事者のニーズを聞き、個別の地域ケア会議を通じて、チームオレンジの仕組みづくりと地域づくりを推進していきたいと考えます。

# 令和4年度

## 香美町 認知症地域支援推進員活動報告

### 認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員： 6名

2 認知症地域支援推進員の役割

#### 医療・介護等との連携

- ・ 認知症ネットワーク会議の運営
- ・ 医療（認知症疾患医療センター・かかりつけ医等）機関との連携：オレンジシート活用
- ・ 認知症初期集中支援チームにおける他職種間連携・調整
- ・ ケアマネ支援（認知症のアセスメント力の向上・課題整理等の助言・提案）

#### 本人・介護者支援

- ・ 香美町オレンジロード（ケアパス）の普及活動
- ・ 認知症カフェでの本人支援・相談できる場の確保
- ・ らく楽介護教室の企画・運営（認知症に関する介護負担の軽減のための教室）

#### 相談支援・支援体制整備

- ・ 認知症初期集中支援チームの企画・調整
- ・ もの忘れ相談日の実施
- ・ にこにこかえるネットワーク（SOSネット）活用による、地域連携の強化

報告者氏名:大西 珠代

# 【香美町】認知症施策全体図

目標	目標の具体案	事業名
Ⅰ) 地域住民が認知症を正しく理解し、見守り支える人が増える	a) キャラバンメイトと認知症サポーターの養成	①認知症サポーター養成 ②チームオレンジの活動支援
	b) 広報・行政放送・イベントの啓発活動	③広報（いきいき通信）
	c) 地域講演会等	④講演会・展示
Ⅱ) 認知症の人と家族支援	d) 認知症ケア従事者のスキルアップ	⑤事業所向け研修会
	e) 医療と介護、地域との連携	⑥医療・認知症疾患センターとの連携
		⑦グループホーム連絡会
		⑧民生委員定例会での意見交換
	f) 早期からの相談支援体制づくり	⑨認知症施策ネットワーク会議
		⑩もの忘れ相談日（月1回）
		⑪認知症初期集中支援事業
⑫若年性認知症サポートブックの普及		
⑬ケアパスの普及		
Ⅲ) つながりを生かしたサービスや活動を住民ができる	g) 認知症予防と生きがいづくり	⑭元気体操サークルの普及
	h) 認知症家族支援	⑮認知症介護教室
		⑯認知症カフェ
	i) 安心・安全への支援	⑰にこにこかえるネットワーク（香美町認知症SOSネットワーク事業）

## 標題 ⑤ 認知症の人本人の社会参加への支援

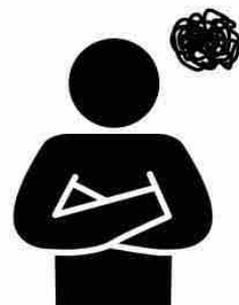
### 香美町で「本人のやりたい」を叶える支援のために

認知症地域支援推進員としての悩み・・・

初期集中支援チームでMCI～軽度認知症の方の支援方法（居場所）がない



デイサービスにつないでも、MCI～軽度認知症の方の利用が続かない

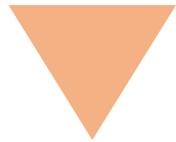


趣味はあるのに、やめてしまった



# なぜ？

- MCI～軽度認知症の方に適したサービス不足？
- できていたことに自信がなくなった



- 趣味活動ができる場所があれば、軽度認知症の方も社会参加を楽しく実施できる！
- 初期集中支援対象者や相談者の中に「編み物」が得意な方、何名か出会う

編み物、好きだけど、最近したくない・・・  
作っても、あげる人もないし



# 「できた」と感じてもらいたい！

地域に既存する  
趣味活動の  
情報収集

社協とケア  
マネと協議

対象者への  
声掛け

- 対象者：認知症かつ
- ①介護認定者のサービス未利用者
  - ②総合事業対象者
  - ③初期集中支援チーム対象者

手しごとの  
会開催

ボランティアへの声掛け  
(チーム  
オレンジ)



# 手しごとの会（第一回：R5.3月）

当事者 **4名参加**  
ボランティア **4名参加**



第1回

集まれ！小代の器用な高齢者

## 手しごとの会

家に余ってる毛糸や編針など、あれば持ってきてくださいネウ

3/1 13:30~15:30  
(水) 小代地域局 2階 中会議室

★編み物が得意な方へ★  
かわいい作品を作って、小代の子どもたちにプレゼントしよう！  
簡単なものでも大丈夫！みんなで楽しくお話ししながら作りませんか？

【問い合わせ】 0796-97-3111 (小代地域局)

# 子育て支援センターの 子どもへ プレゼント♡

- ・女の子にはヘアゴム
- ・男の子には名前入り  
バッジ



「手しごとの会」を通して・・・

- うつ傾向のある方に笑顔が見られたり、次回を楽しみにしてくださる声もあった。
- 地域とつながり、「誰かのために何かをする！」という思いがひきこもりがちな方を動かし、達成感を感じることに繋がった。
- 今後は、編み物だけでなく、参加者のニーズに合わせて木工や農作業、洋裁や調理など、自分のやりたい「手しごと」が継続できる様に考えていきたい。

## • 最後に・・・

認知症地域支援推進員として、

「やりたい」けど「できない」という認知症ご本人の思い、葛藤・・・

⇒「誰かとなら、できる」と思ってもらいたい

地域とのつながりを作り、生きがいを感じて本人らしく生活ができるよう今後も支援し、認知症でも、香美町で自信をもって笑顔で過ごしてほしい！

# 令和4年度 【新温泉町】認知症地域支援推進員活動報告

- **【新温泉町】の認知症地域支援推進員について**
- 1 認知症地域支援推進員： 3 名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - (1) 認知症の理解を深めるための普及・啓発
    - ア 認知症サポーター養成講座の実施
    - イ 認知症講演会の実施
    - ウ 町内専門職向け認知症対応力向上研修の開催
    - エ 地域での認知症について出前講座の開催
    - オ 認知症予防・健康づくりセミナーの開催
    - カ アルツハイマー月間の取組
  - (2) 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等提供
    - ア 認知症ケアパス(認知症支援ガイドブック)の普及
    - イ 在宅医療・介護連携推進事業の実施
    - ウ 但馬圏域・鳥取県東部圏域退院支援ガイドラインの活用
  - (3) 認知症の人や介護者支援
    - ア オレンジカフェのPRと運営
    - イ 立ち上がったオレンジカフェの協働を推進するため、カフェ連絡会の開催
  - (4) 認知症の人を含む地域づくり推進
    - ア 高齢者見守り事業所の拡大(登録事業所を増やす)
    - イ 社会福祉協議会などと連携した地域づくりの推進
    - ウ 認知症高齢者等見守りSOSネットワークの推進

# 【新温泉町】 認知症施策全体図

## ① 早期発見・ 早期対応への 対応

- ・ 認知症初期集中支援チーム員会議の運営(平成29年度から)
- ・ 地域への出前講座による啓発活動(認知症の知識・認知症予防体操など)
- ・ 認知症サポーター養成講座の実施

## ② 医療体制の 強化・充実

- ・ 認知症地域支援推進員を設置し、関係機関との連携に努める
- ・ 認知症ケアパスの作成と、随時見直しの実施
- ・ 「認知症対策会議」を地域ケア会議に位置づけ、意見を町施策へ反映
- ・ 認知症の疑いのある方の主治医連絡、相談の徹底。専門医療機関への紹介

## ③ 地域支援

- ・ 認知症カフェを圏域ごとに設置し、本人や家族が集い、繋がる場所を作る
- ・ 認知症高齢者等見守り・SOSネットワークの構築
- ・ いきいき百歳体操の推進による、住民同士の支えあい・見守り体制づくり

## ④ 人材育成

- ・ 兵庫県が開催する認知症対応力向上研修について、引き続き病院や介護保険施設等への情報提供
- ・ 町内専門職向け認知症対応力向上研修の開催。
- ・ 地域ケア会議を継続的に開催し、介護支援専門員、介護事業所、地域包括支援センター等、多職種での検討をする中で、ケアマネジメント力の向上や更なる質の高いケア人材の育成

## ⑤ 若年性認知 症対策

- ・ 「若年性認知症支援ハンドブック」の活用
- ・ 「認知症の相談窓口」を地域包括支援センターに設置し、地域住民等に啓発
- ・ 「オレンジカフェ」の積極的なPR



# 【新温泉町】 R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

## ・ 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

### 1 認知症カフェ

令和4年度は、コロナウイルスの流行状況に合わせながらの開催となりました。カフェを実施する中でピアサポートを行い、認知症への正しい理解ができるよう町内3カフェ合同で考え方を共有しながら実施しました。

集い名	開催日	開催場所	対象者	内容	参加費	圏域
オレンジカフェ 「ひとやすみ」	毎月第3木曜日 13：30- 15：30	サンシーホール浜坂 (新温泉町浜坂1903-1)	認知症の人 とその家族 地域の方	情報交換 意見交換 自由な会話	100円 (茶菓子代)	浜坂地域
オレンジカフェ 「ほっこり茶屋」	毎月第4火曜日 13：30- 15：00	ほっこり庵 (新温泉町湯894番地)	認知症の人 とその家族 地域の方	情報交換 意見交換 自由な会話	100円 (茶菓子代)	温泉地域
認知症＆予防カフェ うたお茶カフェ 「のどか」	毎月第1水曜日 13：30- 15：00	特別養護老人ホーム ゆむら (新温泉町歌長字熊田 600番地)	認知症の人 とその家族 地域の方	情報交換 意見交換 自由な会話	100円 (茶菓子代)	温泉地域

# 【新温泉町】 R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

## ・ 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

### 2 アルツハイマー月間の取組

「認知症になっても大丈夫だぞ」と言えるまちにをテーマに、様々な場所で普及啓発を実施しました。



本庁舎のライトアップ

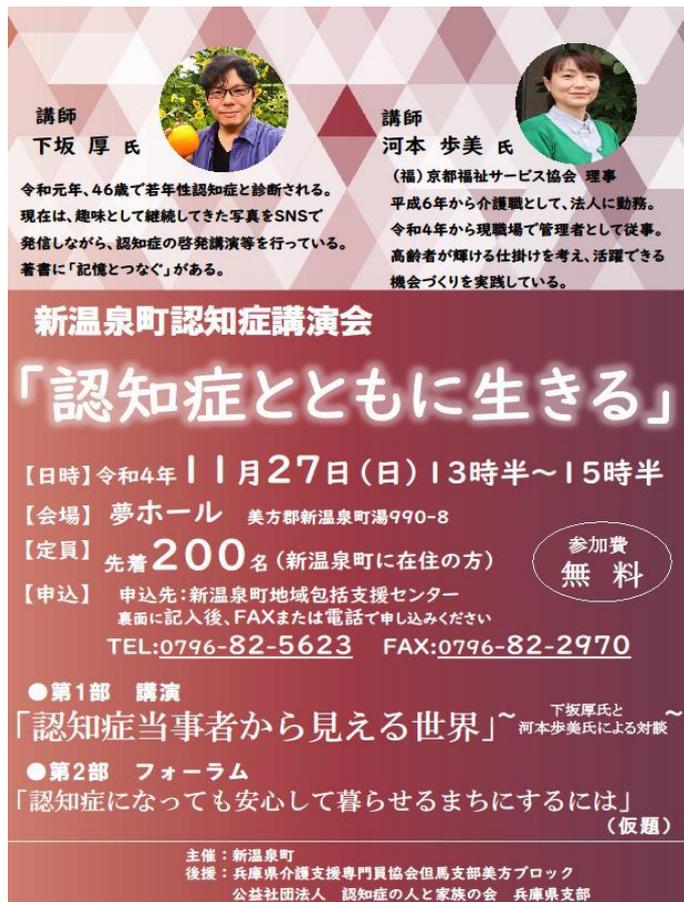


町立図書館に認知症書籍コーナーを設置

# 【新温泉町】 R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

・ 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

## 3 若年性認知症当事者を招いての町民向けフォーラムの実施



**講師**  
下坂 厚 氏

令和元年、46歳で若年性認知症と診断される。現在は、趣味として継続してきた写真をSNSで発信しながら、認知症の啓発講演等を行っている。著書に「記憶とつなぐ」がある。

**講師**  
河本 歩美 氏

(福)京都福祉サービス協会 理事  
平成6年から介護職として、法人に勤務。令和4年から現場で管理者として従事。高齢者が輝ける仕掛けを考え、活躍できる機会づくりを実践している。

**新温泉町認知症講演会**  
**「認知症とともに生きる」**

【日時】令和4年11月27日(日)13時半～15時半  
【会場】夢ホール 美方郡新温泉町湯990-8  
【定員】 参加費 無 料  
先着200名(新温泉町に在住の方)  
【申込】 申込先:新温泉町地域包括支援センター  
裏面に記入後、FAXまたは電話で申し込みください  
TEL:0796-82-5623 FAX:0796-82-2970

●第1部 講演  
「認知症当事者から見える世界」～ 下坂厚氏と河本歩美氏による対談

●第2部 フォーラム  
「認知症になっても安心して暮らせるまちにするには」  
(仮題)

主催:新温泉町  
後援:兵庫県介護支援専門協会但馬支部美方ブロック  
公益社団法人 認知症の人と家族の会 兵庫県支部



開催案内

フォーラムの様子

# 【新温泉町】 R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

・ 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

## 4 神戸大学と共同による認知症予防・健康づくり セミナーの実施

**※神戸大学が開発した、  
認知症予防・健康づくりセミナー** 参加費  
無料

神戸大学が開発したプログラムによって、健康的な生き方や認知症予防について一緒に学びませんか。

**場所** 浜坂多目的集会施設 2階ホール **定員** 50名 ※お電話にて  
申込ください  
**対象** 新温泉町内在住の方 **申込期限** 5月31日(火)

**開催プログラム**

★第1回 6月20日(月) 15:00~16:30  
演題 「フレイル<sup>※</sup>とサルコペニア<sup>※※</sup>」  
講師 神戸大学 保健学研究科 小野 玲 准教授  
※ 加齢に伴う能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態。  
※※ 筋肉量および筋力の低下を特徴とする症候群。

★第2回 8月18日(木) 14:00~15:30  
演題 「社会との関わりと健康長寿」  
講師 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 片桐 恵子 教授

**ご注意**

1. セミナーは神戸大学からの中継(オンライン)にて行います。
2. セミナー終了後、約30分間の健康体操等を予定しています。当日は動きやすい服装でお越しください。
3. 当セミナーは全5回実施します。第3回以降は後日ご案内します。(平日の日中に実施する予定です)

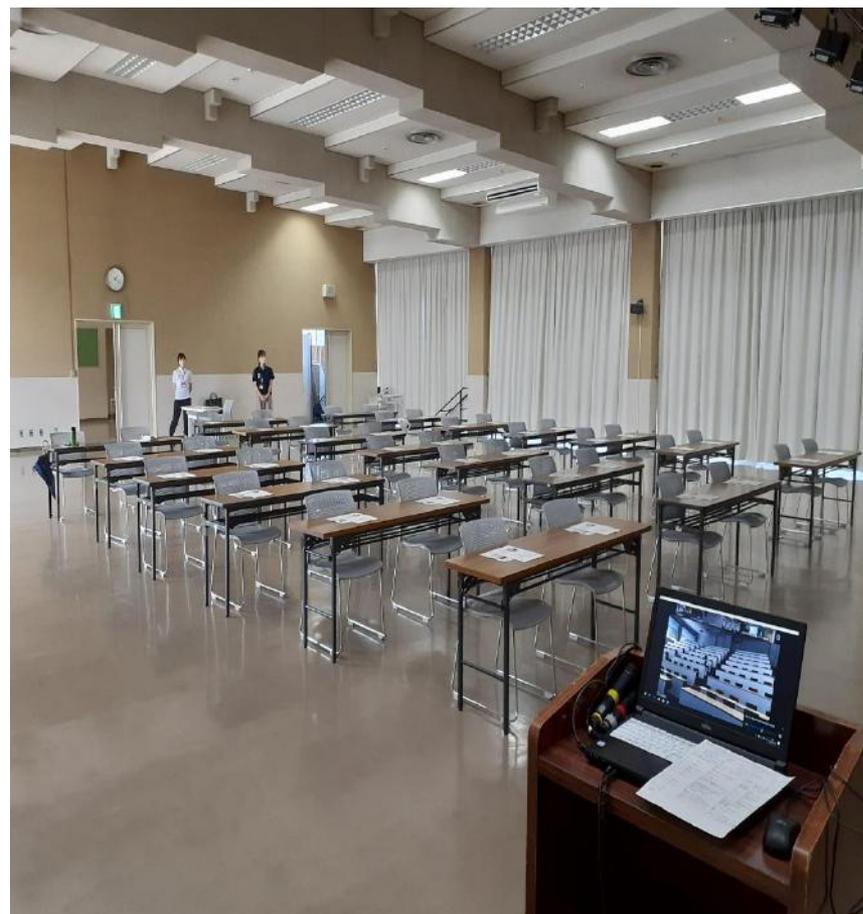
新型コロナウイルスの感染防止対策を行いつつ実施します。  
感染拡大の状況によって、急遽、開催を中止する場合があります。

**共催** 新温泉町地域包括支援センター・新温泉町教育委員会 浜坂公民館

**申し込み先** 新温泉町教育委員会 浜坂公民館 ☎ 82-4339

**内容に関する問合せ** 新温泉町地域包括支援センター ☎ 82-5623

開催案内



セミナー会場の様子

# ● 普及啓発活動を振り返って

## (効果)

- ・ 認知症カフェ、アルツハイマー月間の一斉啓発、若年性認知症当事者を招いての町民向けフォーラム、認知症予防・健康づくりセミナーと様々な手段を用いて普及啓発活動を行った。多くの方達への働きかけが可能となり、認知症の正しい理解へとつながった。

## 最後に・・・

認知症は誰でもなる可能性があります。

**地域全体で、「認知症になっても大丈夫だで。なったら助けてな。私も助けるで。」と言えるような地域づくりを推進していきます。**

# 令和4年度 丹波篠山市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

1. 認知症地域支援推進員：7名
2. 認知症地域支援推進員の役割
  - 地域包括支援センターと共に認知症施策を推進する
  - 認知症に関する相談対応
  - 早期発見・適切な医療・介護が受けられるよう支援する
  - 認知症の正しい知識の普及・啓発
  - 当事者目線で施策や支援を考える
  - 医療・介護に携わる人の「認知症」の理解を促進する
  - 認知症の人や高齢者にやさしい地域づくり

報告者：水口 優子・坂本 和子

# 【丹波篠山市】認知症施策全体図

## 丹波篠山市認知症施策の推進計画（令和3年度～5年度）

### 1 認知症の理解を深めるための普及啓発

○地域の誰もが認知症の人やその家族のことを正しく理解するために、**認知症サポーター養成講座を開催。**

目標値（R3年度：12,000人 R4年度：12,500人 R5年度：13,000人）

- ①地域住民への理解の推進  
・住民、企業、商店、金融機関、市職員等に向け開催
- ②学校教育等における認知症を含む高齢者等への理解の促進  
・小・中・高でのサポーター養成講座開催と高齢者との交流
- ③認知症サポーター養成講座修了者へのステップアップ講座の実施

○認知症の人やその家族の思いを伝え、理解を深める機会づくり

- ①世界アルツハイマーデーを中心にした市全域での周知啓発
- ②本人が語る市民フォーラムの開催

○相談窓口の周知

- ①もの忘れ相談センター・ふくし総合相談窓口の周知
- ②地域包括支援センターの周知

### 2 認知症の予防と早期発見・早期対応

○早期発見のためのシルバー健診後のフォロー（R3年度）

○高齢者のつどい場の拡充支援と健康教育への支援

- ①いきいき倶楽部やお試しクラブ、サロン、ふれあい館事業への参加推奨や健康教育等への支援
- ②高齢者大学等での認知症予防や健康教育

○認知症ガイドブックの活用により、社会資源の紹介

○専門職が認知症の疑われる人や認知症の人及び家族を訪問し、家族支援等の初期の支援を集中的・包括的に行う

- ①ささやま認知症支援チーム（認知症初期集中支援チーム）の周知
- ②ささやま認知症支援チーム委員会開催（月1回）、専門対応会議でのチーム員活動の評価（年2回）
- ③認知症専門医による「高齢者こころの相談」事業

### 3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

○早期発見・早期対応等、医療・介護従事者への認知症対応力向上支援

- ①市診療所の看護師へDASC-21習得後のステップアップ研修
- ②医療・介護従事者への研修
- ③認知症サポート医増員への働きかけ
- ④ささやま認知症支援チーム（認知症初期集中支援チーム）による、適切な医療・介護へ速やかにつなぐ取組み

○認知症の人の介護者の負担軽減への支援

- ①相談窓口（もの忘れ相談センター・地域包括支援センター）の周知啓発
- ②市内の薬局で相談できる体制の整備
- ③認知症カフェ・介護者のつどい場の周知と運営への継続支援
- ④家族向けの介護教室の開催  
介護者に必要な知識の提供と、介護者のつどい場の紹介。
- ⑤「ささやま認知症支援チーム」や「高齢者こころの相談」による早期対応
- ⑥行動・心理症状（BPSD）等に対応するための対応事例集の作成
- ⑦状況に合った社会資源を紹介する認知症ガイドブック（ケアパス）の活用

## コンセプト

認知症の発症を遅らせ、「認知症になっても住み慣れた地域で、誰もが笑顔で安心して暮らせる丹波篠山市」を目指します。  
\*認知症の人やその家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として取り組みを進めます。

## 認知症大綱の5つの柱（R1年6月）

- ①普及啓発・本人発信支援
- ②予防
- ③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
- ⑤研修開発・産業促進・国際展開

## 背景

丹波篠山市においては、総人口は減少傾向となりますが、高齢化率は上昇して行き、特に後期高齢者の増加が見込まれます。

高齢になるほど認知症の有病率は上昇することから、認知症は誰もがなりうるものとして、行政だけでなく市民も一緒になって支援する体制を整える必要があります。

認知症の人の中には地域の中で生活のしづらさを感じながら暮らしている人や、介護者の中には、介護を一人で抱え込んでしまい、不適切な介護につながり、本人にとっても介護者にとっても悲しい暮らしをされている人がいます。

また、介護サービス事業所等においても認知症に関する知識不足等から不適切な介護や虐待となり、市が対応することもあります。

このような状況を防ぎ、認知症の人やその家族が認知症とともに、よりよく暮らしていけるよう、国の認知症大綱に基づき、誰もが我が事として認知症に関することを考え、認知症のことを正しく理解し、支え合える地域づくりと進行予防、早期発見・対応、社会資源の整備を進めていきます。

### 4-1 若年性認知症の人への支援と社会参加

○若年性認知症の方の実態を知る

対象者を把握し生活状況等の実態把握

○若年性認知症の人やその家族が相談できる場を周知

- ①もの忘れ相談センターの周知
- ②認知症カフェの周知

○若年性認知症の人や比較的若い高齢認知症の人に合った居場所づくりへの積極的支援

障がい福祉サービスの中の就労継続支援を活用した社会参加の推進

### 4-2 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくり（認知症バリアフリーの推進）

○なじみの場所で暮らしやすいよう、生活支援体制の充実を図る

- ①家事支援や配食、話し相手等の生活支援を「お互い様活動」として行えるよう、見守り支援サポーター事業やその他のボランティア活動等を推進
- ②認知症サポーター養成講座の受講者数を増やすことで地域の理解者の増加
- ③認知症サポーターが傾聴ボランティアや他のボランティア活動等に参加できる仕組みづくりを整備。（サポーターステップアップ）
- ④「マメに見守り隊」への登録や周知を行い、見守りのネットワークを拡大
- ⑤認知症の人が安心してひとり外出できるように、警察や民間事業所等と連携し、「見守りSOSネットワーク」とGPS助成事業の周知
- ⑥高齢者が自ら運転しなくてもよい移動手段（タクシージェット等）の確保や付き添い等の紹介

○認知症の人の権利擁護（その人らしい暮らし）支援の推進

- ①丹波篠山市高齢者・障がい者権利擁護サポートセンターを中心に、成年後見制度の活用促進や権利擁護支援者の育成
- ②高齢者虐待防止施策を関係機関が連携し、適時・適切に実行する
- ③ふくし総合相談窓口の周知啓発
- ④丹波篠山市消費生活センターや篠山警察署等と連携し、消費者被害（詐欺や悪徳商法等）の予防啓発

○なじみの場所で暮らしやすいよう、生活環境の整備を図る

- ①6つの日常圏域全てで、認知症カフェが開催されるよう、立上げ・継続支援
- ②グループホームや小規模多機能施設、サービス付き高齢者住宅等、高齢者向けの多様な住まいの確保を図れるよう、介護保険事業担当との連携。
- ③介護相談員の訪問により、介護サービス事業所（入所・通所施設）、サ高住等で、適切な支援が受けられているかの評価

## 実施主体

丹波篠山市  
（長寿福祉課・地域包括支援センター  
権利擁護サポートセンター、健康課）



# 丹波篠山市におけるアルツハイマー月間の 一斉啓発の取り組み

『認知症と共に笑顔で暮らすまちに！』をテーマに、市内の民間事業所や高校生と連携し、市内全域へ認知症へ認知症の周知啓発に取り組み、認知症を身近な問題と受け止めてもらう取り組みを実施



親しみのある  
話し言葉で  
作成しました。



認知症のこと、正しく知ってますか？

認知症ってなに？  
認知症とは、いろいろな原因によって脳の働きが低下し、日常生活や日常生活に支障が出ている状態です。

「認知症と共に笑顔で暮らせるまち」への3ステップ

STEP 01  
認知症に対する思い込みや偏見をなくしましょう  
まず、認知症を身近な問題と受け止めてもらうことが大切です。「認知症になったら何も分からなくなる」という先入観を持たず、その人ができることに目を向けてください。

STEP 02  
周りの人が「あれ？」と気づくことが大切です  
家族や職場、周囲の人が「あれ？いつもと違うな」と気づくことがあります。例えば、物忘れが増える、言葉が分からなくなる、歩行が不安定になる、集中力がなくなるなど、認知症の兆候が現れる可能性があります。早めに気づいて、医療や介護などの支援体制を整えることで、進行を遅くすることができます。変化に気づいたらすぐに相談してください。

STEP 03  
丹波篠山市が認知症と共に笑顔で暮らせるまちになるために  
認知症のある人の気持ちやその人の困り方を理解し、地域の中心で活躍できる機会を増やすための取組を進めています。認知症の予防・症状やケア方法について学ぶ「認知症予防の勉強会」を開催しています。あなたもサポーターになってみませんか？

認知症予防の勉強会  
お問い合わせはこちら

認知症に関する て相談	丹波篠山市高齢福祉課 もの忘れ相談センター 電話 079-554-5346	住所 丹波篠山市北新町41 FAX 079-554-3332
お問い合わせ はこちら	丹波篠山市日置385-1 城公園公民館 電話 079-554-2340	丹波篠山市第2庁舎 福祉福祉課 電話 079-554-2351
	西部地域包括支援センター 電話 079-554-3776	丹波篠山市日置301 丹波健康福祉センター内 電話 079-590-1557

## 市役所庁舎をオレンジ色にライトアップ アップ：9/21～9/28



## 中央図書館展示



## 市役所庁舎に横断幕を設置



## マメに見守り隊（高齢者・障がい者等見守りネットワーク）を含めた民間事業所や福祉事業所等が展示



# キッズサポーター養成講座の実施

市内3つの高校で実施



中学校で手作り道具を使用



小学校で子供たちの  
素直な思いを聞く機会  
となった



# アルツハイマー月間：高校生の取り組みの様子

認知症をテーマにした寸劇  
を収録し、まるいのTVで  
放送（YouTube配信）



テーマカラーのオレンジの  
花をつけるマリーゴールド  
を栽培し、市内各所に配置  
🌻



市役所庁舎ホールに高校生がそれぞれに特性を活かした展示



アルツハイマー月間では、高校生やキャラバン・メイト、認知症の人と家族の会の方と一緒に、市内商業施設で街頭キャンペーンに取り組みました。



## キャラバン・メイト通信

2023 Vol 3

皆さんお元気ですか？

3月になり、4年振りに『丹波篠山 ABC マラソン』も開催されました。  
春の装いで、徐々に街も活気づいてきますね。  
今年度のキャラバン・メイト活動に、ご協力いただきありがとうございます。  
ございました。



2月28日(火)に第3回キャラバン・メイト連絡会を開催いたしました。  
今回はその内容をお伝えします。

### 第3回キャラバン・メイト連絡会報告 参加者：16名と事務局2名



#### 【令和4年度活動報告】

##### ★キャラバン・メイト連絡会

- 第1回：令和4年5月24日(火) 18:30~20:00
- 第2回：令和4年7月26日(火) 18:30~20:00
- 第3回：令和5年2月28日(火) 18:00~19:30

##### ★認知症サポーター養成講座

- 小学校：3校(古市・大山・城南)
- 中学校：1校(篠山東)
- 高等学校：3校(東雲・産業・鳳鳴)
- 専門学校：1校(篠山学園)
- 自治会：2か所(真南条下・西紀中地区)
- 企業：1企業(JA 丹波ささやま)
- その他：1団体(いずみ会)



##### ★アルツハイマー月間の活動

街頭キャンペーン活動を高校生と一緒に周知活動しました



##### ★キャラバン・メイト通信発行

- Vol 1: 第2回キャラバン・メイト連絡会の報告
- Vol 2: 9月「みんなで認知症を考える月間」の取り組みの様子
- Vol 3: 3月発行予定

## 認知症地域支援推進員の活動を振り返って

### (効果)

・コロナ禍において、以前のように開催されていた自治会等の認知症サポーター養成講座開催が実施されていない現状が続いている。一方で、キッズサポーターへの認知症サポーター養成講座を市内3つの高校をはじめ、小学校、中学校に実施することができ、認知症に対する理解や気づきの機会になった。

・アルツハイマー月間の取り組みについて、昨年度に引き続き、認知症の啓発に取り組みました。高校生とのコラボ企画の実施、マメに見守り隊(高齢者・障がい者等見守りネットワーク)を含めた民間事業所や福祉事業所、介護者、キャラバン・メイトなど多くの人達を巻き込み、行政と一体となって認知症の周知啓発に取り組むことが出来た。この活動が認知症施策の推進につながった。

### (課題)

・認知症サポーターの方々の認知症サポーター養成講座受講後の活動場所の整備が必要である。

・毎年9月を認知症に関する一斉啓発事業の月間として定着させ、普及啓発し、住み慣れた地域で自分らしく誰もが笑顔で暮らせるまちづくりをめざす。

# 令和4年度 【丹波市】 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 5 名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - ・ 普及啓発
  - ・ 定期相談（認知症疾患医療センターとの連携）
  - ・ 認知症介護者支援（認知症疾患医療センターとの連携）
  - ・ 認知症疾患医療センターと包括との連絡会
  - ・ 認知症初期集中支援事業（実務者会議）の実施
  - ・ 認知症ガイドブックの見直し・印刷・配布（医師会、歯科医師会、薬剤師会、民生委員協議会、介護サービス事業所など）
  - ・ 認知症サポーター養成講座実施（普及啓発DVD活用）
  - ・ 医療機関との意見交換会の実施
  - ・ 関係機関との連携（警察、駐在所との連携）
  - ・ 早期発見SOSシステムの拡大（QRコード、メール配信、防災無線の活用など）
  - ・ 認知症カフェ連絡会開催
  - ・ 認知症予防・早期発見・早期対応への取り組み

- ・ **世界アルツハイマーデー・月間普及**
- ・ **キャラバンメイト連絡会開催・企画・運営（ワーキング部会開催）活動**
- ・ **認知症サポーター養成講座修了者との新しい活動について**

## 報告者氏名

西部地域包括支援センター：中村奈央美

南部地域包括支援センター：山本悠子 東部地域包括支援センター：大久保真理

介護保険課：足立悟・荻野幸紀

# 【丹波市】 認知症施策全体図

- 丹波市の認知症施策の体系図

(丹波市第8期介護保険事業計画より)



## 標題 丹波市における

# 「認知症を地域で支える」理解を広めるための活動を展開

これまでの活動（認サポ開催、商業施設での啓蒙活動、市民講演会など）から  
もう少し「地域で支える視点」を広げたい！



薬剤師会主催の市民講演会に、丹波市キャラバンメイト連絡会として協力。  
薬剤師も含め、多職種キャラバンメイトで劇団「でいめん社」を結成。  
寸劇で市民にアプローチ！

- ◆地域で実際に起こっている問題をピックアップした脚本を作成
- ◆配役や舞台設定を地域とリンクするよう工夫
- ◆市民へのメッセージを盛り込む
- ◆会場にて「気づき」を促すチェックシートなど情報を配布



具体的なサポート  
「**気づいてつながる**」  
ことを大切にしたい！



寸劇の1コマ

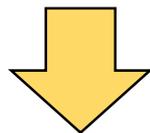


キャラバンメイトのメンバー挨拶

## 認知症サポーター養成講座修了者 座談会

これまでに認知症サポーター養成講座を修了された方と懇談会を2回実施。  
認知症の当事者や家族のために、具体的に何か取り組めないかを話し合った。

- ◆認知症施策の現状や課題を説明。
- ◆養成講座終了後、何か変化があったか。
- ◆自分や家族が認知症になった時、どんな地域だったらよいか。  
何が必要だと思うか。



- ◆ご本人は何に困っているのか知りたい。
- ◆安心できる居場所があればいいのでは？
- ◆さりげない見守りや声掛けが大事。
- ◆本人が知らない人だと不安を感じるのでは。地域として関心を持ってほしい。



## 啓発活動の輪を拡大

メイトメンバーの意見により、アルツハイマーデーの活動をより広く実施

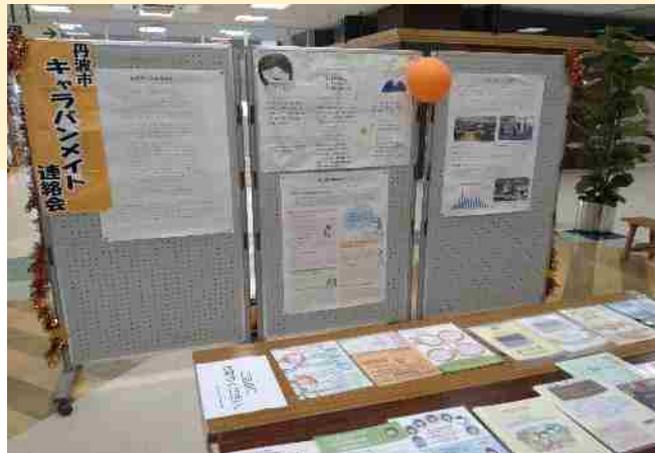
- ◆市内高校で認知症サポーター養成講座を実施
- ◆アルツハイマーデー啓発活動に同高校インターアクト部の生徒参加（チラシやノベルティの配布）
- ◆啓発に丹波市のゆるキャラ「ちーたん」が登場
- ◆各公的施設等でオレンジライトアップ
- ◆認知症啓発パネルを刷新
- ◆作成パネルの展示（市内商業施設、高校文化祭）
- ◆パネル作成や啓発活動の準備等、活動の要として認知症地域支援推進員が活躍



丹波竜のちーたん



商業施設内でのパネル展示



植野美術館のライトアップ

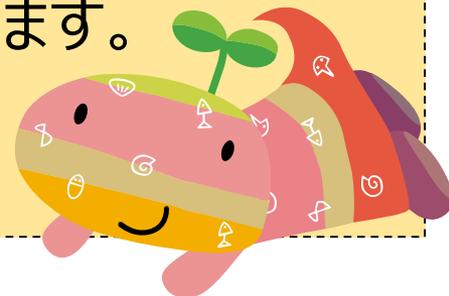
- 最後に・・・

丹波市では、当事者やその家族、キャラバンメイトのメンバーやサポーター等が、認知症の理解者、支援者として自分らしく活躍できるよう進めています。

コロナ禍において活動が制限される中で、今できることは何なのか当事者や支援者間で話し合いながらの活動を続けてきました。

認知症地域支援推進員はその要として、支援者と手を取り合っ  
て今後も活動を進めていきます。

無理なく楽しみながら、「わたし（たち）が描く、こうありたいまち」を目指して、新たな人や資源とつながっていきたいと思います。



# 令和4年度 洲本市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員:1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割:認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう本人や家族の視点に立った地域づくりをすすめる。

認知症初期集中支援チームによるサポート

すもとオレンジライフサポート  
(認知症ケアパス)の普及・啓発

医療・介護  
との連携

- ・かかりつけ医、認知症疾患医療センター、専門医との連携
- ・脳いきいき相談による早期介入
- ・介護保険サービスの利用支援
- ・認知症予防健診でリスクのある人へのフォロー

本人・家族  
支援

- ・認知症の相談窓口の普及・啓発
- ・認知症をささえる家族の会・家族介護者への支援
- ・若年性認知症相談支援、本人ミーティングの開催
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの周知、啓発、登録の推進

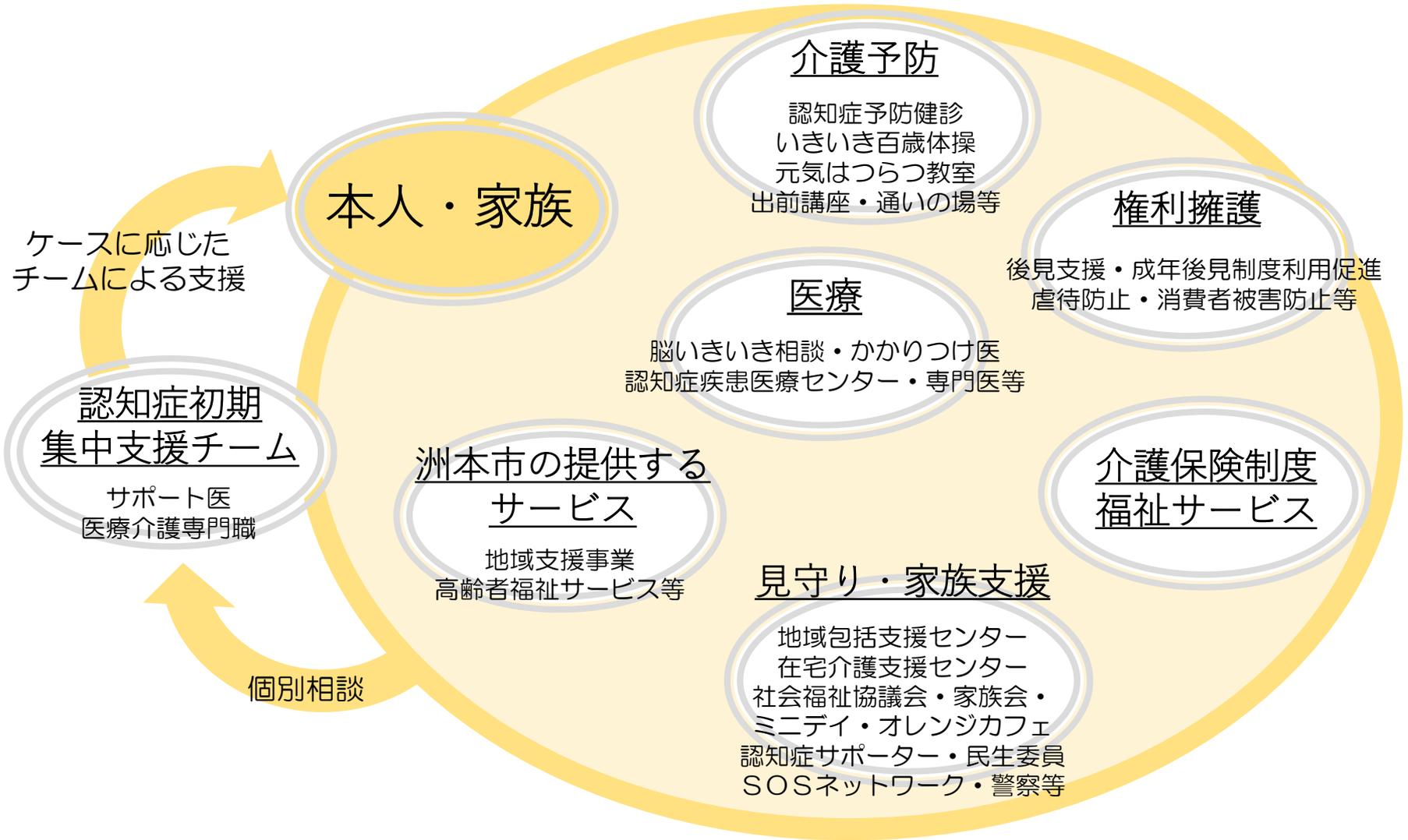
認知症に  
やさしい  
地域づくり

- ・認知症への理解を深めるための普及啓発（広報掲載、出前講座、認知症サポーター養成講座、図書館での関連図書コーナー設置等）
- ・認知症サポーター・チームオレンジ活動支援
- ・認知症になってもGENKIすもと（官民連携）協議会

報告者氏名:洲本市地域包括支援センター：岡田 香苗  
洲本市介護福祉課長寿支援係：安東 美鈴

# 【洲本市】認知症施策全体図

すもとオレンジライフサポートに沿って、認知症の状態に応じた支援や医療・介護サービスにつながることができるようサポートしています



## 洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

### <取り組みを始めるまでの経緯>

認知症サポーター養成講座受講者：累計3,879名。内、認知症サポーター活動登録同意者159名（R2年3月末）

具体的な活動について働きかけのないまま、認知症サポーターまかせになっていた。

### <市の認知症施策担当者及び認知症地域支援推進員の思い>

チームオレンジ活動のイメージがわからない……



洲本市での認知症の方やその家族にやさしい地域づくりに向けて、チームオレンジの活動って、どんな活動？！

キャラバンメイト連絡会でチームオレンジについて情報提供、今後の推進について相談。  
⇒認知症サポーター自身が、日々見聞きしたり活動する中で感じている思い、困っていること、やりたいと思っていること等集まって話をしてみてもどうか。

認知症サポーター交流会

# 洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

## < 取組の経過 >

令和2年10月 第1回認知症サポーター交流会  
日頃の活動や思いを情報交換

令和3年1月 第2回認知症サポーター交流会(コロナ禍で中止)

令和3年4月 第2回認知症サポーター交流会  
認知症あるある事例への対応①、グループワーク

令和4年1月 第3回認知症サポーター交流会  
認知症あるある事例への対応②、グループワーク

認知症サポーター交流会後、毎回キャラバンメイト連絡会で振り返り、次回の方向性、内容について検討。  
令和4年度より、チームオレンジコーディネーター配置。

令和4年11月 認知症サポーターステップアップ講座

情報交換の機会  
があったらいいな。



認知症の人への対応  
について知りたい。

認知症サポーター交流会  
の様子

# 洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

## <ステップアップ講座を実施して>

- ◆目的: 認知症に関する基礎知識・理解を深めるための講座を通じて、  
チームオレンジの活動など、より実際の支援活動につなげる。
  - ◆対象者: 認知症サポーター養成講座修了者で2回の講座を両方受講できる方。
  - ◆内容:
    - 第1日目: 講義「認知症をもつ高齢者とのコミュニケーション」ロールプレイ、グループワーク
    - 第2日目: デイサービス、ミニデイサービスでグループに分かれて実習、グループワーク
  - ◆反応:
    - ・正面から目線を合わせて話しかけることが大切とわかった。
    - ・本人の好きなことを話題に雰囲気づくりから始める等、認知症をもつ高齢者への接し方のポイントを再確認できた。
    - ・実習で何を話したらよいかと構えていたが、高齢者の方から話しかけてくれ、一緒に楽しむことで自然とコミュニケーションが取れた。
- ⇒チームオレンジ 10名登録

# 洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

## 課題と今後の方向性

日々の推進員活動を通して、認知症に対する偏見がまだまだ強い地域性を感じています。

認知症の人やその家族が安心して住み慣れた家で生活できる地域づくりのため、認知症サポーターを増やしていくことが必要です。また併せてチームオレンジ活動の拠点づくりが必要です。

## 最後に・・・

キャラバンメイトや認知症サポーター、関係者と共にめざす方向性を共有し、丁寧にステップを踏みながら認知症の人やその家族にやさしい、誰もが過ごしやすい洲本市になるよう土台作りを取り組んでいきたいと思えます。

# 令和4年度 南あわじ市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割



- 認知症に関する正しい知識の普及（認知症サポーター・キャラバンメイトの支援）
- ケアパスの活用と普及
- 見守り・SOSネットワーク事業（模擬訓練を含む）の推進
- 認知症疾患医療センターを含む医療機関、介護サービス事業者等関係者との連携体制構築
- 認知症カフェへの支援
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症（若年性含む）の当事者支援・家族支援

報告者氏名： 眞野 多江

## 南あわじ市認知症施策全体図

認知症相談センターの設置  
(認知症地域支援推進員の配置)

### ④地域支援体制の構築

高齢者等の  
見守り・SOSネットワーク  
ネットワーク連絡会

認知症サポーター養成講座  
・ステップアップ講座  
キャラバンメイト連絡会

「認知症になっても安心して  
暮らし続けることのできるまち」  
南あわじ市



### ①早期発見・早期対応・予防

認知症チェックシートの普及

認知症初期集中支援チーム  
検討委員会

しゃきしゃき百歳体操

### ③家族・本人支援

認知症を支える家族の会「スマイル」  
スマイル（認知症）カフェ

### ②医療連携体制の構築

認知症疾患医療センター・  
南あわじ市医師会との連携

認知症ケアネット  
(ケアバス)の活用

## 標題 南あわじ市における高齢者等の見守り・ SOSネットワークの充実に向けて

### 課題

- 認知症の相談が増加
- 行方不明になる高齢者の増加
- 市民の認知症に対する理解不足
- 認知症施策について市民に良く知られていない

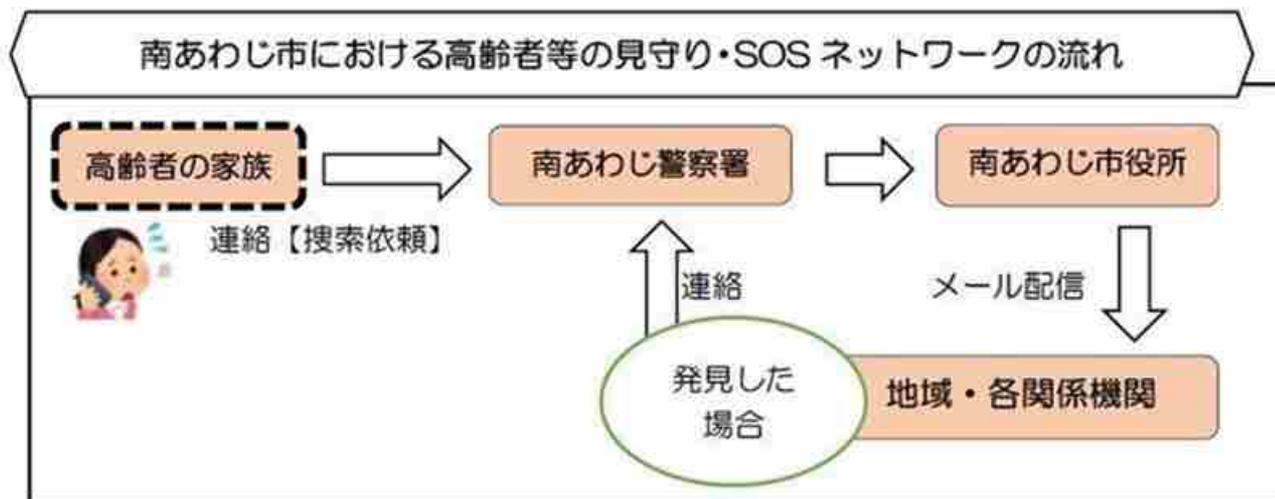


市民に広く周知する必要性を実感



## 高齢者等の見守り・SOSネットワークについて

- ・ 認知症等により所在不明になる可能性のある方を事前にご本人の身体的特徴や連絡先、写真などを登録し、行方不明になった際に、登録された情報を元に各関係機関や協力機関等が検索するものです。
- ・ 事前登録することにより、早期発見や日頃の見守りができるため、ご本人・ご家族の方の安心につながります。



# 南あわじ市における高齢者等の見守り・SOSネットワークの充実に向けて

～他市の事例を参考とした「見守りQRシール」導入検討～



## 事業概要・流れ

地域包括にて「見守りSOSネットワーク」に登録の際、  
「見守りQRシール」を配布

家族で衣類カバン靴などの所持品にシールを貼っていただく

行方不明～発見・通報

保護、登録しておいた個別番号で身元特定を速やかに行う

QRコードには南あわじ警察の連絡先が掲載され、個人情報是不分らない仕組みになっています。

シールを貼ることで認知症高齢者の尊厳が損なわれたり、トラブルに巻き込まれる可能性もあるため対象者の状況に応じて慎重に使用を見極め、導入を検討したいと考えます。

# 「認知症になっても安心して暮らし続けることのできるまち」南あわじ市を目指して

## 今後の取組

- 施設や団体との連携を強化し協力機関を増やす
- 模擬訓練等を実施し地域の方々が認知症を正しく理解し、見守り体制を構築
- 認知症や認知症施策の普及啓発



## • 最後に・・・

認知症は誰にでも起こりうるものです。認知症になっても住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を継続できるように本人や家族の立場に立った地域づくりを目指します。

# 令和4年度 淡路市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 6名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - ◎医療・介護等の支援ネットワーク構築
    - ・ケアネットの普及
    - ・認知症の方が認知症の状態に応じて必要な医療や介護等のサービスを受けられるよう関係機関との連絡体制の構築
  - ◎認知症対応力向上のための支援
    - ・病院施設等における処遇困難事例の検討及び個別支援
    - ・チームオレンジ・認知症カフェ・家族会の支援
  - ◎相談支援・支援体制構築
    - ・認知症の方や家族等への相談支援
    - ・「認知症初期集中支援チーム」との連携による、必要なサービスが認知症の人や家族に提供されるための調整



報告者氏名： 井上詩織 松尾靖子

# 淡路市 認知症施策全体図



認知症相談センター  
もの忘れ相談

初期集中  
支援事業

共に歩む  
ミーティング

見守り・SOS  
ネットワーク事業

しゃきしゃき  
100歳体操

見守り声かけ訓練

eコグニケア

介護者の会  
家族介護者交流事業

地域支援事業  
市民フォーラム

ひょうご認知  
症サポート店

サポーター  
活動支援

認知症サポーター養成、  
ステップアップ講座



キャラバンメイト連絡会



…一般介護予防事業

…包括的支援事業

…任意事業

# 標題) 認知症高齢者等の見守り、SOS ネットワークの充実について

## 【令和4年度の活動経過】

6月 チームオレンジメンバーと防災について話し合う。



最近、ゲリラ豪雨みたいな天気多いなあ

1人暮らしの人が多  
いけど、みんな備え  
てるのかなあ？

避難の基準が変わっ  
たの知ってる？

前に一緒に避難所に  
泊まったねえ

決められている避難  
所は利用しにくいよ

**認知症地域支援推進員**  
防災関連の話題を投げかけたり、  
関係機関と防災講話の調整を行う。

8月 チームオレンジが主催するつどい場（認知症カフェ）で防災講話を実施。



非常時のために備  
えてることある？

緊急連絡先、薬、水…  
子どもも近く  
おらんし不安やわ

震災の時は避難所までの  
道も危なかった。もっと  
安全な場所はないかな

みんなちゃんと逃げられる  
かな？心配な人がいる！

10月 地域ケア会議でM氏の災害時の安全な避難について話し合う。

チームオレンジメンバーとケアマネージャーとの話し合いから、近隣で独居のM氏は必要な判断ができないので、災害時には支援を要すると思われた。

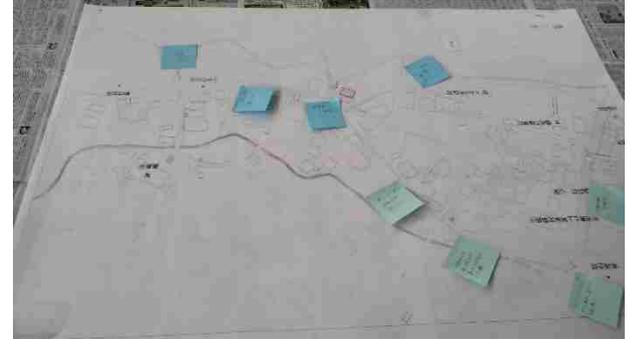
ケアマネージャー

M氏の個別避難計画策定。近所を含め、支援が得られそうな人と具体的な相談を行う。

認知症地域支援推進員

M氏の近隣者や他の災害時要支援者について民生委員や町内会長に聞き取りを行う。

11月 地域ケア会議にて関係者でM氏宅周辺環境調査を実施し、訓練計画を立てる。



12月 M氏を含む近隣5件の避難訓練（見守り声かけ訓練）を実施。

地域ケア会議にて訓練の振り返りを実施。

感想：避難時に声かけや支援が必要な住民を確認できた  
避難時の持ち物やルートを確認できた。

自分にできることに気が付いた。

一次避難所よりも地域の公民館に避難したい。

その場合の手続きについて知ることができた。



## 【実施の効果及び課題】

効果：M氏の避難方法について地域で共有し、支援者を得ることができた。

（SOSネットワークの構築を図った。）

認知機能が低下している人への見守り、声かけの方法を学ぶことができた。

避難所開設について知り、公民館の改善につながった。（トイレ、備蓄品）

関係者が地域住民から、地域の防災上の特徴を学ぶことができた。

課題：高齢独居、認知症者を中心に検討したが、障害者についての想定を促すことができなかった。

防災意識に個人差が大きい。市民全体の防災リテラシーの向上を目指す必要がある。



### • 最後に・・・

認知症にまつわる相談が増える中、家族や関係者の困りごとや意見が表立つことが多く優先されがちです。例えことばとして聞かれなくても、認知症の本人の声が大切であるということを忘れず、またそのことを周囲の人にも伝えていきたいです。本人や家族が孤立することなく、気持ちを分かち合っていけるよう仲間とつながる機会づくりを行っていきます。

認知機能の低下の有無に関わらず、暮らし慣れた地域の人と共に過ごす時間を持ち続けることで、幸福感を得られるような地域づくりを目指したいと思います。